

学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

救急救命学科

2024年度 シラバス

OCMT

OTA COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

1 授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

2 授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
80～100点	評価「優」 単位を認定する。
70～79点	評価「良」 単位を認定する
60～69点	評価「可」 単位を認定する。
60点未満	評価「不可」 単位を認定しない。

なお、本試験の得点が60点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が60点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	救急救命学科				配当時間	60	対象年次 1
科目名	数学 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	戸谷 幸永		
使用教材	公務員試験テキスト 数学・数的推理（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリント配布						
科目概要	公務員試験を目標として、問題演習を通じて数学の基礎の定着させる。公務員試験における数学の出題数は少ないが、確実に得点できる実践力を養う。						
到達目標	1 数学の基礎を習得する。 2 頻出項目を理解し、過去問レベルの問題を解くことができる。						
評価方法 基準	各学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	数学の基礎	中学～高校1年程度の問題演習を行う	
2	数と式	文字式の演算、指数	
3	数と式	展開	
4	数と式	因数分解とその応用	
5	数と式	因数分解とその応用	
6	数と式	平方根の計算	
7	数と式	平方根の有利化・二重根号	
8	単元テスト	数と式のテスト	
9	方程式と不等式	連立方程式	
10	方程式と不等式	連立方程式	
11	方程式と不等式	二次方程式	
12	方程式と不等式	二次方程式	
13	方程式と不等式	二次方程式	
14	方程式と不等式	一次方程式	
15	まとめ	前期のまとめ	

回	単元	内容	備考
16	関数	一次関数	
17	関数	一次関数	
18	関数	二次関数	
19	関数	二次関数の頂点と軸	
20	関数	二次関数の最大・最小	
21	関数	二次関数と直線の共通点	
22	関数	二次関数と判別式	
23	単元テスト	関数のテスト	
24	三角比	三角比の応用	
25	三角比	鈍角の三角比	
26	三角比	三角比の応用	
27	三角比	鈍角の三角比	
28	三角比	三角比の相互関係	
29	三角比	三角形と三角比	
30	まとめ	後期のまとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	化学 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	戸谷 幸永		
使用教材	公務員試験テキスト 自然科学（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリント配布						
科目概要	物質の構造・性質の基礎を理解し、様々な化学反応の仕組みを理解する。そのことで体内の生理現象の基礎の理解を深める。また、公務員試験における対策も行う。						
到達目標	1. 物質の構造・三態変化 2. 溶液・コロイド 3. 酸・塩基 4. 酸化還元 5. 有機化学 以上の内容に関連する問題を解くことができる。						
評価方法 基準	定期試験を実施し、60点以上を単位認定する						
成績評価の フィードバック	単元ごとに問題演習を行い、理解の程度を確認する。 必要に応じてし解説を行う。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	物質の分類	化合物と単体・同素体	
2	物質の構造	原子の構造・同位体・分子	
3	原子の電子配置	電子殻・価電子・イオン	
4	物質質量	原子量・分子量・モル	
5	物質の三態変化	三態変化	
6	気体の性質	ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式	
7	溶液	濃度の種類・溶解度・再結晶	
8	酸・塩基①	酸・塩基の定義・種類	
9	酸・塩基②	PH・中和反応	
10	酸化・還元①	酸化・還元の見方	
11	酸化・還元②	電気分解・電池	
12	無機化合物	無機化合物の特徴	
13	有機化学①	有機化合物の特徴・炭化水素の分類	
14	有機化学②	有機化合物の反応	
15	有機化学③	高分子化合物	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	生物 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	身近な生物学（羊土社）						
科目概要	救急救命士の対象である人間の身体を理解するために専門基礎分野の「人体の構造と機能」を学ぶにあたり、その土台となる生物の生命現象について学ぶ。						
到達目標	人間の営みのもととなる生命現象について理解し、生体維持や固体の調節機能について学ぶ。						
評価方法 基準	筆記試験を期末試験として実施する。						
成績評価の フィードバック	1、生命とは何か、DNA のはたらき等、健康な身体のしくみ。ヒトの進化と病気の成立。 2、循環型社会の構築はなぜヒトの健康な生命活動と密接に結びついているのか。質問時間を設けて自由な発言の中で楽しく上記課題を学べるようにする。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 中学校の生物とできれば高校生物程度の理解を準備学習とします。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生命体のつくりとはたらき	化合物と単体・同素体	
2	生体維持とエネルギー	原子の構造・同位体・分子	
3	細胞の増殖とからだの成り立ち	電子殻・価電子・イオン	
4	遺伝情報と伝達、発現のしくみ①	原子量・分子量・モル	
5	遺伝情報と伝達、発現のしくみ②	三態変化	
6	遺伝情報と伝達、発現のしくみ③	ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式	
7	iPS 細胞と医学の進歩	濃度の種類・溶解度・再結晶	
8	生殖と発生	酸・塩基の定義・種類	
9	固体の調節①	PH・中和反応	
10	固体の調節②	酸化・還元の定義	
11	刺激の受容と行動	電気分解・電池	
12	生命の進化と多様性、進化医学	無機化合物の特徴	
13	生物と環境の関わり	有機化合物の特徴・炭化水素の分類	
14	地球環境とヒトとの共存	有機化合物の反応	
15	命の尊さ	高分子化合物	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	地学 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 自然科学（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリント配布						
科目概要	<p>公務員試験の出題分野の一つである「地学」は、出題数自体は少ないが、出題範囲は狭く、ポイントをしっかりと押さえれば得点源にできる科目である。本講義においては、地学の頻出項目とポイントを解説する。また、過去問及びそれに相当するレベルの問題の演習を行い、実践力を養う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 頻出項目のポイントを理解できる 2 過去問及びそれに相当する問題を解ける 						
評価方法 基準	<p>学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。</p>						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	地球の運動と太陽系	地球の運動・太陽系の構造・宇宙	
2	気象	天気の変化・大気圏・異常気象	
3	地表の変化	岩石の特徴と分類・地層と歴史・地形	
4	地球の内部構造	地震・地球の内部構造・地磁気	
5	総合演習	過去問の演習	
6	総合演習	過去問の演習	
7	総合演習	過去問の演習	
8	まとめ	講義のまとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	応用数学Ⅰ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 数学・数的推理（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリント配布						
科目概要	公務員試験において重要な科目である数的処理の基礎を養い、確実に得点できる実践力を養う。						
到達目標	1 数的推理における頻出項目の基本的解法を知る。 2 数的推理の平易な問題を解くことができる。						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	比と倍数	解法の理解と演習	
2	方程式	解法の理解と演習	
3	過不足算	解法の理解と演習	
4	速度	解法の理解と演習	
5	濃度	解法の理解と演習	
6	濃度	解法の理解と演習	
7	濃度	解法の理解と演習	
8	仕事算とニュートン算	解法の理解と演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	3
科目名	応用数学Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	戸谷 幸永		
使用教材	公務員試験テキスト 数学・数的推理（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリント配布						
科目概要	1、2年次の「数学」及び「応用数学Ⅰ」の内容を踏まえ、公務員試験レベルの数学及び数的推理の問題に対するアプローチの仕方、基本的解法を押さえたうえで、過去問及びそれに相当するレベルの問題の演習を行い、実践力を養う。						
到達目標	1 頻出項目の解法を理解できる 2 頻出項目の解法を踏まえ、過去問及びそれに相当する問題を解ける						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総合演習 1	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
2	総合演習 2	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
3	総合演習 3	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
4	総合演習 4	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
5	総合演習 5	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
6	総合演習 6	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
7	総合演習 7	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
8	総合演習 8	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
9	総合演習 9	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
10	総合演習 1 0	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
11	総合演習 1 1	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
12	総合演習 1 2	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
13	総合演習 1 3	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
14	総合演習 1 4	数学及び数的推理の過去問及び類似問題等を解き、実践力を強化する。	
15	まとめ	講義のまとめ・テスト	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	3
科目名	資料解釈 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 判断推理・資料解釈（TAC出版編集部）、その他						
科目概要	グラフや表を読み取り、題意にあった計算を実行して解答を選び出す。						
到達目標	1 グラフや表が正しく読めること。 2 題意にあった計算式が導き出せること。 3 いかにかに計算を早くするか。						
評価方法 基準	期中に2度（中間試験、期末試験）を行う、さらに演習中に前に出て解答してもらおうことで総合的に評価する。						
成績評価の フィードバック	中間試験では、次の時間に解答を行い、出来なかった学生には再度実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 1 基本的グラフ・表の読み方 2 計算を早くするために、有効数字の考え方						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	資料解釈の基礎	割合の考え方	
2	資料解釈の基礎	色々なグラフや表	
3	資料解釈の基礎	最後まで計算しなくて良いもの	
4	思慮解釈の基礎	演習問題	
5	構成比	全体を100とした時の各項目の割合	
6	構成比	演習問題	
7	中間試験		
8	増減率	ある基準に対して、どれだけ増えたか	
9	増減率	演習問題	
10	増減率	演習問題	
11	指数	基準を100として、ある数値と比べたもの	
12	指数	演習問題	
13	指数	演習問題	
14	まとめ	プリント演習	
15	期末試験		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	実技
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	情報科学 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	川邊 昌一		
使用教材	「30時間でマスター office2019」実教出版						
科目概要	<p>救急救命士として実践に必要な情報の収集や分析が出来るよう、また、医療施設において必要なコンピュータ操作ができるように、パソコンの基礎から、ワープロソフトでの文書作成、表計算ソフトでの計算処理、プレゼンテーションソフトでのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.パソコンの基礎知識（OS、ブラウザ、操作方法）の習得 2.ワープロソフトで実務的文書（ビジネス文書、連絡・報告書など）の作成ができる。 3.表計算ソフトで実用的（会計処理、統計計算、成績処理など）な表計算処理ができる 4.プレゼンテーションソフトで効果的なプレゼンテーション資料を作成できる。 						
評価方法 基準	<p>ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、それぞれ単元終了後に、与えられた課題をもとに作品を完成させ提出。 クリアしなければならない項目が70%以上で合格。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>作品提出後、問題の完全解説をクラス全体に行う。細かい質問は個別対応する。</p>						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コンピュータ基礎	OS (Windows10) の基礎 ファイルとフォルダ・ブラウザの使い方	
2	Word基礎	Wordの画面構成 日本語入力システム・文字入力	
3	文章入力・書式	ビジネス文書の構成、文書の装飾	
4	表・画像・図形の挿入	表を活用した文書の作成 画像や図形を活用した文書の作成	
5	Word評価テスト	問題に沿って文書作成・提出 問題完全解説	
6	Excel基礎	Excelの画面構成 データ入力	
7	ワークシート編集・計算式	計算式の作り方 関数を使った表計算	
8	グラフ作成	様々なグラフの作成方法 グラフのカスタマイズ	
9	条件判定・検索関数	IF関数による条件判定・複合条件 VLOOKUP関数による検索	
10	便利な機能	データの並べ替え、抽出 Wordとの連携	
11	Excelテスト	問題に沿ってワークシート作成・提出 問題完全解説	
12	PowerPoint基礎	PowerPointの画面構成 スライドの作成	
13	表や画像の活用	アニメーションの付け方 スライドショーの設定	
14	PowerPointテスト	問題に沿ってプレゼンテーション作成・提出 問題完全解説	
15	ビジネスメール	Outlookを使ったビジネスメールの基本、 宛先の入れ方、添付ファイル等	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	倫理学 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	適宜プリント配布						
科目概要	公務員試験（消防職等）への対応と医療従事者としての心構えを考えさせる。西洋倫理を中心に講義を行うが、それを踏まえて医療現場の状況を設定する。						
到達目標	公務員試験（消防職等）合格への対応と医学概論を合わせた医療従事者としての自覚の涵養を目標とする。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位認定を認定する。評価基準は学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験採点后、答案用紙を返却する。また担任を通じて各個人に成績を通知する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 各講義内容を十分に理解するとともに、医療重視者としての自覚をもって講義に臨むことを希望する。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	倫理学と行動科学	フロイトの超自我	
2	哲学の誕生	古代ギリシャ人の遺産	
3	自分との対話・他者との対話・現実との対話	ソクラテス・プラトン・アリストテレス	
4	宗教の倫理的要素	ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教	
5	人間の再興と近代	ルネサンスと宗教改革	
6	アセスメントと戦略的思考	自己分析と状況分析（緊急時の対応）	
7	理性と観察・仮説と検証	イギリス経験論と大陸合理論	
8	欲望の増殖と管理	自然法思想と社会契約	
9	経験論と合理論の統合	ドイツ観念論哲学	
10	幸福の計量と幸福の質	功利主義思想	
11	現実との対峙	実存主義	
12	有用性と評価	プラクティズム	
13	状況設定 1	①Ⅰ型糖尿病（小児）②老々介護	
14	状況設定 2	①ターミナルケアとQOL②精神保健	
15	状況設定 3	①守秘義務と医療責任②傷病者の自己決定権	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	3
科目名	社会学Ⅰ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 社会科学（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリントを配布						
科目概要	公務員試験の出題分野の一つである社会科学の1分野「政治経済」は、出題頻度が高い重要な科目である。本講義においては、頻出項目とポイントを解説する。また、過去問及びそれに相当するレベルの問題の演習を行い、実践力を養う。						
到達目標	1 頻出項目のポイントを理解できる 2 過去問及びそれに相当する問題を解ける						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	市場の形態	経済の発展・経済学説	
2	市場の形態	現代の市場と企業・需要と供給	
3	景気と金融政策	インフレーションとデフレーション	
4	景気と金融政策	銀行の役割・金融政策	
5	財政政策と税・通貨	日本の財政・財政政策	
6	財政政策と税・通貨	租税・通貨制度	
7	国民所得と景気変動	国民所得	
8	国民所得と景気変動	景気変動	
9	国際経済	国際収支・国際通貨体制	
10	国際経済	経済機構	
11	国際経済の動向と 日本経済の特徴	南北問題・累積債務・経済協力	
12	国際経済の動向と 日本経済の特徴	日本の農業政策・中小企業・貿易	
13	労働問題・社会保障 消費者問題	労働三権・社会保障制度の発達	
14	労働問題・社会保障 消費者問題	公害と消費者問題及び関連法	
15	まとめ	講義のまとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	3
科目名	社会学Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 社会科学（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリントを配布						
科目概要	公務員試験の出題分野の一つである社会科学の1分野「政治経済」は、出題頻度が高い重要な科目である。本講義においては、頻出項目とポイントを解説する。また、過去問及びそれに相当するレベルの問題の演習を行い、実践力を養う。						
到達目標	1 頻出項目のポイントを理解できる 2 過去問及びそれに相当する問題を解ける						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	民主主義	民主主義の歴史とそのポイントを学習する	
2	日本国憲法	日本国憲法の理念とそのポイントを学習する	
3	基本的人権	基本的人権とそのポイントを学習する	
4	立法	立法・国会とそのポイントを学習する	
5	行政・司法	行政・司法とそのポイントを学習する	
6	地方自治	地方自治とそのポイントを学習する	
7	選挙制度と政党政治	選挙制度・政党政治とそのポイントを学習する	
8	国際政治	国際政治とそのポイントを学習する	
9	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
10	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
11	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
12	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
13	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
14	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
15	テスト	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	3
科目名	社会学Ⅲ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 人文科学（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリントを配布						
科目概要	公務員試験の出題分野の一つである「地理」について、頻出項目とポイントを解説する。また講義の後半には、過去問及びそれに相当するレベルの問題の演習を行い、実践力を養う。						
到達目標	1 頻出項目のポイントを理解できる 2 過去問及びそれに相当する問題を解ける						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	地図投影法	地図投影法とそのポイントを学習する	
2	世界の地形	世界の地形とそのポイントを学習する	
3	気候区分	気候区分とそのポイントを学習する	
4	世界の産業	世界の農牧業とそのポイントを学習する	
5	世界の産業	世界の鉱工業とそのポイントを学習する	
6	世界地誌・言語・人種	世界地誌・三大人種と混血・言語とそのポイントを学習する	
7	人口問題・都市問題 環境問題	世界の諸問題とそのポイントを学習する	
8	日本の地誌	日本の地誌とそのポイントを学習する	
9	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
10	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
11	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
12	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
13	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
14	総合演習	過去問を解き、その解説を作成する	
15	テスト	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	歴史学Ⅰ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 人文科学（TAC出版編集部）、 その他、適宜プリントを配布						
科目概要	公務員試験への対応。日本史の古代から江戸期までを通覧する。						
到達目標	公務員試験合格のため、高卒程度の範囲を到達目標とする。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。 総合的に60点以上得点した者に単位認定を認定する。評価基準は学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	答案用紙を各個人に返却する。また、担任を通じて各個人に成績を通知する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 暗記が必要であるが、事象の流れをしっかりと理解すること。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	統一国家の成立	小国分立・邪馬台国・大和王権	
2	律令体制の確立	憲法一七条・近江令・ 飛鳥浄御原令・大宝律令	
3	奈良時代の政治と社会	貴族政治の展開と墾田地系荘園	
4	律令体制の再建と失敗	藤原摂関政治と寄進地系荘園	
5	地方の混乱と武士の勃興	地方の混乱と武士の勃興	
6	院生と平氏政権	院生と平氏政権	
7	鎌倉幕府	鎌倉幕府と執権政治の展開 元寇と鎌倉幕府の滅亡	
8	南北朝時代	建武の新政と南北朝の動乱	
9	室町幕府	荘園制の崩壊と惣村制	
10	応仁の乱	応仁の乱と守護大名の没落	
11	戦国大名の活躍	織田信長・豊臣秀吉・徳川家康	
12	ヨーロッパ人の来航と キリスト教の伝来	ヨーロッパ人の来航とキリスト教の伝来	
13	江戸幕府 1	江戸幕府の幕閣体制と鎖国	
14	三大改革	享保の改革・寛政の改革・店舗の改革	
15	江戸幕府 2	鎖国体制の動揺と江戸幕府の崩壊	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	歴史学Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	適宜プリントを配布						
科目概要	この分野は、公務員試験において全体の約10%程度の出題数となるため、一定レベルは確保しておくべきである。典型的な知識科目であるため、知識の定着がこの分野での得点を左右する。						
到達目標	消防職・救命職公務員合格のため、高等学校卒業程度プラスアルファの範囲を到達目標にする。						
評価方法 基準	学期途中及び期末に筆記試験を実施し、授業への出席率・授業態度、及び課題提出等を総合的に判断し評価する。						
成績評価の フィードバック	一斉授業を基本とするが、こまめに問題演習を行い、知識の定着を図る。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 暗記することはもちろんであるが、科目の性格上、事柄の流れをしっかりと理解することが必要である。個人でも関心を持ち、不明な点は積極的に質問などを行い解決してほしい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	西洋史近代	帝国主義 第1次世界大戦・1920年代～30年代の状況 第2次世界大戦・冷戦とその終結	
2	中国史	明・清、その他	
3	西洋史近世	絶対王政・市民革命 市民革命・ウィーン体制・産業革命	
4	近世1	江戸幕府のしくみと統制・初期の外交 江戸期の政治展開・後期の外交	
5	近世2	幕末期の政治・倒幕の流れ	
6	近代1	明治期・大正期	
7	近代2	昭和期・現代	
8	総復習		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	3
科目名	国語 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	公務員試験テキスト 国語・文章理解（TAC出版編集部）、 また、適宜プリントを配布する。						
科目概要	公務員試験において出題される漢字、四字熟語、ことわざ、慣用句、故事成語の習得を目指し、かつ文章理解の解法を学ぶ。						
到達目標	1 漢字能力検定2級程度の漢字の読み書きができる。 2 頻出の四字熟語の意味を習得し、また漢字で表記できる。 3 頻出のことわざ・慣用句・故事成語とその意味がわかる。 4 文章理解の解法がわかる。						
評価方法 基準	学期途中及び期末に筆記試験を実施し、授業への出席率・授業態度、及び課題提出等を総合的に判断し評価する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 講義時には国語辞典や漢字辞典があるとよい（電子辞書でも可とする）。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	四字熟語	頻出の四字熟語とその意味	
2	ことわざ	頻出のことわざとその意味	
3	慣用句	頻出の慣用句とその意味	
4	故事成語	頻出の故事成語とその意味	
5	漢字 1	漢字の書き取り	
6	漢字 2	漢字の書き取り	
7	漢字 3	漢字の書き取り	
8	漢字 4	漢字の書き取り	
9	漢字 5	漢字の書き取り	
10	漢字 6	漢字の書き取り	
11	文章理解の解法 1	重要語・論理形式	
12	文章理解の解法 2	マーキングと選択肢の検討	
13	文章理解の解法 3	マーキングと選択肢の検討	
14	まとめ	総合問題を解く	
15	テスト	前期試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	実技																					
開講学科	救急救命学科				配当時間	120	対象年次	1																				
科目名	体育Ⅰ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	長澤 憲一																						
使用教材	なし																											
科目概要	救急救命学科は、消防職員採用試験の体力試験合格を目標に体育を実施する。1年次では基礎体力向上のため、主に走力を強化する内容に重点を置き授業を展開する。																											
到達目標	<table border="0"> <tr> <td>・20mシャトルラン</td> <td>95(70)回以上</td> <td>・腕立て伏せ</td> <td>40(23)回以上</td> </tr> <tr> <td>・上体起こし</td> <td>45(40)回以上</td> <td>・反復横跳び</td> <td>50(35)回以上</td> </tr> <tr> <td>・立ち幅跳び</td> <td>220(170)cm以上</td> <td>・握力(左右平均)</td> <td>30(15)kg以上</td> </tr> <tr> <td>・長座体前屈</td> <td>35(40)cm以上</td> <td>・懸垂(斜懸垂)</td> <td>11(40)回以上</td> </tr> <tr> <td>・かがみ跳躍</td> <td>50(35)回以上</td> <td>・ロープ登はん</td> <td>1往復</td> </tr> </table> <p>※上記の数値は、各種目の6点に相当。()内は女子の数値。</p>								・20mシャトルラン	95(70)回以上	・腕立て伏せ	40(23)回以上	・上体起こし	45(40)回以上	・反復横跳び	50(35)回以上	・立ち幅跳び	220(170)cm以上	・握力(左右平均)	30(15)kg以上	・長座体前屈	35(40)cm以上	・懸垂(斜懸垂)	11(40)回以上	・かがみ跳躍	50(35)回以上	・ロープ登はん	1往復
・20mシャトルラン	95(70)回以上	・腕立て伏せ	40(23)回以上																									
・上体起こし	45(40)回以上	・反復横跳び	50(35)回以上																									
・立ち幅跳び	220(170)cm以上	・握力(左右平均)	30(15)kg以上																									
・長座体前屈	35(40)cm以上	・懸垂(斜懸垂)	11(40)回以上																									
・かがみ跳躍	50(35)回以上	・ロープ登はん	1往復																									
評価方法 基準	前期及び後期末に体力測定評価を実施する。持久力・筋力・敏捷性・柔軟性など、10種目の合計得点において評価をする。(各種目、数値により1～10点で評価)総合得点が60点以上の者に単位を認定する。また、受講態度を点数化し、体力試験の得点に加減する。																											
成績評価の フィードバック	不合格者については、到達目標に達するまで長期休業中(夏季、冬季、春季)の補習に参加させる。また、トレーニング理論や栄養学を踏まえた指導を行う。																											
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <table border="0"> <tr> <td>・20mシャトルラン</td> <td>90回以上</td> <td>・腕立て伏せ</td> <td>40回以上</td> </tr> <tr> <td>・上体起こし</td> <td>45回以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>上記の数値を上回ることを望む。</p>								・20mシャトルラン	90回以上	・腕立て伏せ	40回以上	・上体起こし	45回以上														
・20mシャトルラン	90回以上	・腕立て伏せ	40回以上																									
・上体起こし	45回以上																											

授業計画

回	単元	内容	備考
1	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
2	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
3	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
4	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
5	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
6	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
7	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
8	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
9	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
10	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
11	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
12	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
13	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
14	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
15	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	

回	単元	内容	備考
16	走力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
17	走力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
18	走力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
19	走力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
20	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
21	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
22	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
23	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
24	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
25	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
26	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
27	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
28	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
29	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
30	体力測定評価	10種目の測定を実施	

回	単元	内容	備考
46	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
47	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
48	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
49	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
50	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
51	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
52	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
53	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
54	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
55	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
56	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
57	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
58	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
59	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
60	体力測定評価	10種目の測定を実施	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	通年	形態	実技																					
開講学科	救急救命学科				配当時間	90	対象年次	2																				
科目名	体育Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	長澤 憲一																						
使用教材	なし																											
科目概要	救急救命学科は、消防職員採用試験の体力試験合格を目標に体育を実施する。2年次では、1年次で実施した基礎体力強化の内容に加え、筋力強化にも重点を置き授業を展開する。																											
到達目標	<table border="0"> <tr> <td>・20mシャトルラン</td> <td>100(75)回以上</td> <td>・腕立て伏せ</td> <td>60(35)回以上</td> </tr> <tr> <td>・上体起こし</td> <td>50(40)回以上</td> <td>・反復横跳び</td> <td>50(35)回以上</td> </tr> <tr> <td>・立ち幅跳び</td> <td>230(180)cm以上</td> <td>・握力(左右平均)</td> <td>35(20)kg以上</td> </tr> <tr> <td>・長座体前屈</td> <td>40(40)cm以上</td> <td>・懸垂(斜懸垂)</td> <td>12(60)回以上</td> </tr> <tr> <td>・かがみ跳躍</td> <td>60(45)回以上</td> <td>・ロープ登はん</td> <td>1往復</td> </tr> </table> <p>※上記の数値は、各種目の6点に相当。()内は女子の数値。 トレーニング終了時間 150分以内を目標とする。</p>								・20mシャトルラン	100(75)回以上	・腕立て伏せ	60(35)回以上	・上体起こし	50(40)回以上	・反復横跳び	50(35)回以上	・立ち幅跳び	230(180)cm以上	・握力(左右平均)	35(20)kg以上	・長座体前屈	40(40)cm以上	・懸垂(斜懸垂)	12(60)回以上	・かがみ跳躍	60(45)回以上	・ロープ登はん	1往復
・20mシャトルラン	100(75)回以上	・腕立て伏せ	60(35)回以上																									
・上体起こし	50(40)回以上	・反復横跳び	50(35)回以上																									
・立ち幅跳び	230(180)cm以上	・握力(左右平均)	35(20)kg以上																									
・長座体前屈	40(40)cm以上	・懸垂(斜懸垂)	12(60)回以上																									
・かがみ跳躍	60(45)回以上	・ロープ登はん	1往復																									
評価方法 基準	前期及び後期末に体力測定評価を実施する。持久力・筋力・敏捷性・柔軟性など、10種目の合計得点において評価をする。(各種目、数値により1～10点で評価)総合得点が60点以上の者に単位を認定する。また、受講態度を点数化し、体力試験の得点に加減する。																											
成績評価の フィードバック	不合格者については、到達目標に達するまで長期休業中(夏季、冬季、春季)の補習に参加させる。また、トレーニング理論や栄養学を踏まえた指導を行う。																											
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <table border="0"> <tr> <td>・20mシャトルラン 80回</td> <td>・腕立て伏せ 40回</td> <td>・上体起こし 45回</td> <td>・反復横跳び 50回</td> </tr> <tr> <td>・立ち幅跳び220cm</td> <td>・握力(左右平均) 30kg以上</td> <td>・懸垂 11回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・長座体前屈 35cm</td> <td>・かがみ跳躍50回</td> <td>・ロープ登はん 1往復</td> <td></td> </tr> </table> <p>上記の数値を上回ることを望む。</p>								・20mシャトルラン 80回	・腕立て伏せ 40回	・上体起こし 45回	・反復横跳び 50回	・立ち幅跳び220cm	・握力(左右平均) 30kg以上	・懸垂 11回		・長座体前屈 35cm	・かがみ跳躍50回	・ロープ登はん 1往復									
・20mシャトルラン 80回	・腕立て伏せ 40回	・上体起こし 45回	・反復横跳び 50回																									
・立ち幅跳び220cm	・握力(左右平均) 30kg以上	・懸垂 11回																										
・長座体前屈 35cm	・かがみ跳躍50回	・ロープ登はん 1往復																										

授業計画

回	単元	内容	備考
1	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
2	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
3	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
4	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
5	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
6	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
7	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
8	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
9	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
10	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
11	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
12	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
13	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
14	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
15	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	

回	単元	内容	備考
16	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
17	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
18	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
19	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
20	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
21	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
22	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
23	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
24	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
25	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
26	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
27	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
28	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
29	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
30	体力測定評価	10種目の測定を実施	

回	単元	内容	備考
31	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
32	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
33	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
34	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
35	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
36	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
37	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
38	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
39	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
40	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
41	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
42	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
43	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
44	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
45	体力測定評価	10種目の測定を実施	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	実技																				
開講学科	救急救命学科			配当時間	120	対象年次	3																				
科目名	体育III <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	長澤 憲一																						
使用教材	なし																										
科目概要	救急救命学科は、消防職員採用試験の体力試験合格を目標に体育を実施する。3年次では2年次の内容に加え、体力錬成の終了目標時間を設定し、休憩時間を短縮させることにより耐乳酸性能力の向上に重点を置き授業を展開する。																										
到達目標	<table border="0"> <tr> <td>・20mシャトルラン</td> <td>105(80)回以上</td> <td>・腕立て伏せ</td> <td>80(40)回以上</td> </tr> <tr> <td>・上体起こし</td> <td>55(40)回以上</td> <td>・反復横跳び</td> <td>60(40)回以上</td> </tr> <tr> <td>・立ち幅跳び</td> <td>240(190)cm以上</td> <td>・握力(左右平均)</td> <td>40(25)kg以上</td> </tr> <tr> <td>・長座体前屈</td> <td>45(45)cm以上</td> <td>・懸垂(斜懸垂)</td> <td>16(60)回以上</td> </tr> <tr> <td>・かがみ跳躍</td> <td>70(55)回以上</td> <td>・ロープ登はん</td> <td>1往復</td> </tr> </table> <p>※上記の数値は、各種目の6点に相当。()内は、女子の数値。 トレーニング終了時間 130分以内を目標とする。</p>							・20mシャトルラン	105(80)回以上	・腕立て伏せ	80(40)回以上	・上体起こし	55(40)回以上	・反復横跳び	60(40)回以上	・立ち幅跳び	240(190)cm以上	・握力(左右平均)	40(25)kg以上	・長座体前屈	45(45)cm以上	・懸垂(斜懸垂)	16(60)回以上	・かがみ跳躍	70(55)回以上	・ロープ登はん	1往復
・20mシャトルラン	105(80)回以上	・腕立て伏せ	80(40)回以上																								
・上体起こし	55(40)回以上	・反復横跳び	60(40)回以上																								
・立ち幅跳び	240(190)cm以上	・握力(左右平均)	40(25)kg以上																								
・長座体前屈	45(45)cm以上	・懸垂(斜懸垂)	16(60)回以上																								
・かがみ跳躍	70(55)回以上	・ロープ登はん	1往復																								
評価方法 基準	前期及び後期末に体力測定評価を実施する。持久力・筋力・敏捷性・柔軟性など、10種目の合計得点において評価をする。(各種目、数値により1～10点で評価)総合得点が60点以上の者に単位を認定する。また、受講態度を点数化し、体力試験の得点に加減する。																										
成績評価の フィードバック	不合格者については、到達目標に達するまで長期休業中(夏季、冬季、春季)の補習に参加させる。また、トレーニング理論や栄養学を踏まえた指導を行う。																										
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <table border="0"> <tr> <td>・20mシャトルラン 76回</td> <td>・腕立て伏せ 50回</td> <td>・上体起こし 45回</td> <td>・反復横跳び 50回</td> </tr> <tr> <td>・立ち幅跳び220cm</td> <td>・握力(左右平均) 30kg以上</td> <td>・懸垂 11回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・長座体前屈 35cm</td> <td>・かがみ跳躍50回</td> <td>・ロープ登はん 1往復</td> <td></td> </tr> </table> <p>上記の数値を上回ることを望む。</p>							・20mシャトルラン 76回	・腕立て伏せ 50回	・上体起こし 45回	・反復横跳び 50回	・立ち幅跳び220cm	・握力(左右平均) 30kg以上	・懸垂 11回		・長座体前屈 35cm	・かがみ跳躍50回	・ロープ登はん 1往復									
・20mシャトルラン 76回	・腕立て伏せ 50回	・上体起こし 45回	・反復横跳び 50回																								
・立ち幅跳び220cm	・握力(左右平均) 30kg以上	・懸垂 11回																									
・長座体前屈 35cm	・かがみ跳躍50回	・ロープ登はん 1往復																									

授業計画

回	単元	内容	備考
1	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
2	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
3	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
4	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
5	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
6	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
7	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
8	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
9	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
10	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
11	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
12	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
13	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
14	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	
15	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング 3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ 登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダークロス25回×3セット、ディップス50回	

回	単元	内容	備考
16	走力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
17	走力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
18	走力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
19	走力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
20	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
21	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
22	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
23	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
24	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
25	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
26	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
27	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
28	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
29	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
30	体力測定評価	10種目の測定を実施	

回	単元	内容	備考
46	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
47	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
48	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
49	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
50	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
51	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
52	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
53	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
54	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
55	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
56	走力強化 筋力強化	登坂走（6種目）3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
57	走力強化 筋力強化	サーキットトレーニング3セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
58	走力強化 筋力強化	5km走、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
59	走力強化 筋力強化	20mシャトルラン2セット、腕立て伏せ200回、懸垂50回、ロープ登はん5本、上体起こし100回、かがみ跳躍100回、アムカル30回×3セット、ショルダープレス25回×3セット、ディップス50回	
60	体力測定評価	10種目の測定を実施	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	英語 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	適宜プリントを配布						
科目概要	公務員試験の文章理解（英語）の対策として、短文の和訳を集中的に行い、英文解釈のコツをつかむ。						
到達目標	1 英文の構造が理解できる。 2 英文を読むための基本的な語彙を習得する。 3 辞書を使って平易な英文の逐語訳ができる。 4 辞書を使って平易な英文の意識ができる。						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 講義時には必ず英和辞書を持参すること（電子辞書でも可とする）。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	英文の和訳の特訓 1	英文の構造を知る 主語の発見	
2	英文の和訳の特訓 2	形容詞句・副詞句 第一文型	
3	英文の和訳の特訓 3	第二文型・第三文型 第四文型	
4	英文の和訳の特訓 4	第五文型	
5	英文の和訳の特訓 5	形式主語・形式目的語・無生物主語	
6	英文の和訳の特訓 6	不定詞・分詞・動名詞	
7	英文の和訳の特訓 7	名詞構文	
8	英文の和訳の特訓 8	関係詞	
9	英文の和訳の特訓 9	節	
10	英文の和訳の特訓 10	比較構文	
11	英文の和訳の特訓 11	否定構文	
12	英文の和訳の特訓 12	助動詞	
13	英文の和訳の特訓 13	仮定法	
14	英文の和訳の特訓 14	特殊な構文・相関構文	
15	まとめ	総合問題を解く	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	社会と医療 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	内山 央絵		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	<p>救急救命士の実務経験を活かし、公務員（消防職員）として、救急救命士として消防組織の沿革、消防法体形の概要、消防行政を取り巻く環境や救急救命士の成立過程を講義する。また、医療従事者として必要な生命倫理や医の倫理について講義する。</p>						
到達目標	消防人（救急救命士）として自覚をもった学生を育成することを目標とする。						
評価方法 基準	学習態度（出席状況）及び期末試験の結果を総合的に判断し、60点以上を合格とする。						
成績評価の フィードバック	担任を通じて、各個人に成績を開示する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>学生個人が目指す消防職員（救急救命士）として、将来像を描きながら講義に臨んで欲しい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急救命士	救急救命士法について 救急救命士の責務	
2	救急救命士	救急救命士法について 救急救命士の責務	
3	救急業務	救急業務の沿革救急隊員の責務	
4	消防	消防の成り立ち市町村消防の概要	
5	消防	消防組織法の概要消防法の概要	
6	関係法令	地方自治法地方公務員法	
7	人間と人間生活	身体	
8	人間と人間生活	心・生活	
9	科学的思想の基礎	科学的思考・科学における客観性 仮説と実証・再現性	
10	科学的思想の基礎	母集団とサンプル・内的妥当性と外的妥当性 普遍性・科学的アート	
11	生命倫理と医の倫理	生命倫理と医の倫理	
12	生命倫理と医の倫理	生命倫理の考え方と医療の実際 傷病者の権利を護る立場から	
13	生命倫理と医の倫理	救急救命士の職業倫理	
14	公務員として	国家公務員と地方公務員公務員としての倫理	
15	まとめ	まとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	文書作法・ビジネスマナー <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	ビジネス能力検定 ジョブパス3級（実教出版）、 その他、適宜プリントを配布する						
科目概要	臨床実習において、学生が実習を成功裏に終了するためには、実習指導者や実習施設の関係者と良好な関係を築くことが望まれる。特にこの点を重視して、良好な関係構築のために必要となる挨拶、敬語、身だしなみ等のポイントを解説する。						
到達目標	1 状況に合わせた挨拶ができる。 2 他者に不快感を与えない身だしなみを理解する。 3 敬語を理解し、状況に合わせて運用できる。 4 実習の礼状を正しく書くことができる。						
評価方法 基準	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ビジネスマナーとは	ビジネスマナーの必要性	
2	ビジネスマナーとは	社会で求められる能力	
3	キャリアシミュレーション	キャリアシミュレーションゲーム	
4	身だしなみと挨拶	身だしなみの基本 状況に合わせた挨拶	
5	敬語	敬語の基本	
6	敬語	状況に合わせた敬語の使い方	
7	礼状の書き方	ビジネス文書の基本	
8	礼状の書き方	実習礼状の書き方	
9	電話対応	電話対応の基本	
10	電話対応	実習先への電話のかけ方	
11	冠婚葬祭のマナー	慶事のマナー	
12	冠婚葬祭のマナー	弔事のマナー	
13	話し方	改まった話し方	
14	まとめ	講義のまとめ	
15	テスト	前期試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	実技
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	規律訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	内山 央絵		
使用教材	総務省消防庁（訓練礼式の基準）						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、消防訓練礼式（各個訓練、通常点検、停止間・行進間）の動作について手順や注意点等を解説し、その手順により正しい技能を修得する訓練を行う。						
到達目標	<p>訓練の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人の規律心の向上 2 指揮者としての指揮能力の養成 3 団結力、規律及び士気並びに共同動作の基礎を作る 4 訓練資器材の愛護 						
評価方法 基準	学習態度（出席状況）及び期末試験の結果を総合的に判断し、60点以上を合格とする。						
成績評価の フィードバック	担任を通じて、各個人に成績を開示する。また、不合格者については個別に伝達する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急救命士	救急救命士法について 救急救命士の責務	
2	救急救命士	救急救命士法について 救急救命士の責務	
3	救急業務	救急業務の沿革救急隊員の責務	
4	消防	消防の成り立ち市町村消防の概要	
5	消防	消防組織法の概要消防法の概要	
6	関係法令	地方自治法地方公務員法	
7	人間と人間生活	身体	
8	人間と人間生活	心・生活	
9	科学的思想の基礎	科学的思考・科学における客観性 仮説と実証・再現性	
10	科学的思想の基礎	母集団とサンプル・内的妥当性と外的妥当性 普遍性・科学的アート	
11	生命倫理と医の倫理	生命倫理と医の倫理	
12	生命倫理と医の倫理	生命倫理の考え方と医療の実際 傷病者の権利を護る立場から	
13	生命倫理と医の倫理	救急救命士の職業倫理	
14	公務員として	国家公務員と地方公務員公務員としての倫理	
15	まとめ	まとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	人体の構造と機能Ⅰ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、適宜プリント配布						
科目概要	正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学修する。血液と免疫系の詳細、バイタルサインの基本である循環・呼吸器系、さらに生体調節に大きく関わる内分泌系を講義する。						
到達目標	1.人体の構成および構造の詳細を系統的に理解し説明できる。 2.ヒトにおける基本的活動を理解し他人に説明することができる。 3.生理機能破綻による疾患の基本的な発症メカニズムを理解し説明することができる。						
評価方法 基準	筆記試験で評価する。						
成績評価の フィードバック	定期試験後に出題の意図と解答の解説を行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 教科書に目を通し不明な単語や医学用語を調べておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	解剖生理学とは？	解剖生理学序論：浸透圧、アシドーシス/アルカローシス	
2	人体概観	人体における線と面、器官系	
3	細胞の構造と機能	細胞膜の機能、細胞小器官の役割	
4	血液学1	血漿と血清、造血機構、血液細胞の機能	
5	血液学2	止血・凝固と線溶、ABO式/Rh式血液型	
6	免疫1	自然免疫と獲得免疫、T細胞とB細胞、抗体	
7	免疫2	アレルギー、アナフィラキシーショック、エピペン	
8	循環器系1	循環器総論（肺循環と体循環、ヒトにおける循環の特徴）	
9	循環器系2	心臓の構造と機能、心電図、血管の機能的分類	
10	循環器系3	循環の調節機構・血圧の調節機構、リンパ循環	
11	呼吸器系1	呼吸器総論（呼気と吸気、酸素/二酸化炭素の運搬）	
12	呼吸器系2	気管と肺、肺胞でのガス交換、呼吸調節機構	
13	内分泌系1	内分泌総論（ホルモンと受容体、フィードバックシステム）	
14	内分泌系2	視床下部・脳下垂体・甲状腺・副腎のホルモン	
15	内分泌系3	糖代謝・カルシウム代謝・生殖に関するホルモン	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	人体の構造と機能Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、適宜プリント配布						
科目概要	正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学修する。生殖器系の詳細、消化器系と泌尿器系の構造と機能、さらに生体調節に大きく関わる神経系、感覚器系を講義する。						
到達目標	1.人体の構成および構造の詳細を系統的に理解し説明できる。 2.ヒトにおける基本的活動を理解し他人に説明することができる。 3.生理機能破綻による疾患の基本的な発症メカニズムを理解し説明することができる。						
評価方法 基準	筆記試験で評価する。						
成績評価の フィードバック	定期試験後に出題の意図と解答の解説を行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 教科書に目を通し不明な単語や医学用語を調べておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生殖器系1	男性/女性の生殖器の構成と機能、 性染色体とその異常	
2	生殖器系2	性周期・受精・妊娠・分娩・泌乳・閉経	
3	消化器系1	消化器系総論（消化器系の構成）	
4	消化器系2	口腔から咽頭、食道、胃、胃液の特性、 小腸と大腸、肝臓と膵臓、胆汁と膵液	
5	消化器系3	三大栄養素の消化・吸収過程	
6	泌尿器系1	泌尿器系の構成、 腎臓の形態や働きおよび尿生成のメカニズム	
7	泌尿器系2	泌尿器系の構成、 腎臓の形態や働きおよび尿生成のメカニズム	
8	神経系1	神経系総論 （神経細胞の構造と神経系の構成）	
9	神経系2	神経機能の特徴、自律神経、 活動電位、シナプス	
10	神経系3	神経障害（麻痺、振戦、失語症、パーキンソン病、アルツハイマー病）	
11	感覚器系1	視覚（網膜・対光反射）、聴覚、平衡感覚	
12	感覚器系2	味覚の仕組み（味蕾、味細胞、大脳味覚野、 味覚障害）、嗅覚の仕組み	
13	骨と筋肉1	主な骨と骨代謝	
14	骨と筋肉2	筋収縮のメカニズム	
15	体温調節	体温調節中枢としての視床下部、 皮膚の機能、発熱の機序	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	基礎医学Ⅰ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	ナーシンググラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学（メディカ出版）						
科目概要	<p>生体内では連続的に、しかも並行して様々な化学反応が起こっている。取り入れた栄養分からエネルギーを作り、様々な生体に必要な構成分子を合成し生命活動を行っている。これが異常な状態になると病的状態となる。このシステムがどうなっているのか病気を理解するための基礎知識を講義する。</p>						
到達目標	<p>日常生活や臨床場面で実際に起こっている事象と生化学とが結びつけられよう、人体で起こっている化学反応（代謝）の基礎を学ぶ。</p>						
評価方法 基準	<p>期末試験の結果及び課題発表について積極的な取り組みの程度を加味し60点以上を合格点とする。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>自分の身体の中で起こっている様々な化学反応を一つ一つ関連付けながら理解を深めていく。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>基礎的な化学の上に成り立っている生化学なので前期で学習した化学をしっかりとしておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	代謝について	代謝とは、 代謝の制御とはどういうことなのか	
2	細胞の構造と機能	生命の基本構造である細胞について学ぶ 細胞小器官の働きなど	
3	糖質の構造と性質	生命維持に必要な糖類の種類と性質	
4	脂質の構造と性質	生命維持に必要な脂質の種類と性質	
5	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸及びタンパク質の構造と性質、種類	
6	核酸とヌレオチド	DNAとRNAの構造と性質	
7	ビタミンの種類と働き	水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン 今までのまとめとして中間試験を行う	
8	酵素	酵素の役割と性質及び分類、 臨床診断に使用される酵素について	
9	代謝Ⅰ 糖質代謝	糖質代謝の概要、解糖の仕組み、グリコーゲンの合成と分解、血糖の調節とホルモンの作用等	
10	代謝Ⅱ 脂質代謝	脂質代謝の役割と概要、消化、吸収、貯蔵 脂肪酸の分解。ケトン体の代謝等	
11	代謝Ⅲ タンパク質代謝	タンパク質・アミノ酸の役割と概要	
12	代謝Ⅳ 核酸代謝	ヌクレオチド代謝の役割と概要 抗がん剤の作用等	
13	代謝Ⅴ エネルギー代謝	臓器間の代謝のつながり、代謝異常と疾患 糖尿病について等	
14	遺伝情報	DNAがどのように読み取られタンパク質を作っているのか、遺伝病について等	
15	先天性代謝異常	遺伝子障害が身体に及ぼす様々な代謝異常症について等	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	基礎医学Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	系統看護学講座専門基礎分野疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学（医学書院）						
科目概要	<p>病理学は病気の原因を解明し、診断をしていくことを目的としています。医学の中でも臨床医学と近いところにあります。人間が自然の一部として進化してきた過程における病気とのかかわりについても取り上げながら医学の基本病因である、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍および各器官系の疾病についても講義する。</p>						
到達目標	<p>病気の原因がどこにあるのか明らかにし、症状および回復の促進についてどんな現象が起こるのか理解できること。</p>						
評価方法 基準	<p>中間試験と期末試験の平均で60点以上を合格とします。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>各授業ごとに質問時間を設け理解されたかどうか確認をする。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>解剖学や生理学などを学んでいると理解しやすい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	病理学の領域	病理学の領域と内容の概略を学習する	
2	細胞・組織とその障害、再生と修復	細胞、組織の障害とその理由、再生と修復を細胞組織レベルで理解する	
3	循環障害、炎症	循環系の再認識、循環障害の成り立ち、炎症の原因と経過について学ぶ	
4	免疫とアレルギー、感染症	免疫の仕組みと働き、アレルギー、感染症の特徴と代表的な微生物感染症	
5	代謝異常、老化と老年病	脂質障害やタンパク質障害、糖代謝異常を来たす疾患	
6	先天異常、新生児の病理、腫瘍、中間試験	先天異常、遺伝子疾患、胎児障害、総論の中間試験を実施	
7	循環器系	循環器系疾病の成り立ちと回復の促進について	
8	歯・口腔・呼吸器系	歯・口腔・呼吸器系疾病の成り立ちと回復の促進について	
9	消化器系	消化器系疾病の成り立ちと回復の促進について	
10	内分泌系	内分泌系疾病の成り立ちと回復の促進について	
11	造血器系	造血器系疾病の成り立ちと回復の促進について	
12	腎・尿路系	腎・尿路系疾病の成り立ちと回復の促進について	
13	生殖器系とHIV感染	生殖器系の成り立ちと回復の促進、HIV感染について	
14	脳・神経系、運動器系	脳神経系、運動器系疾病の成り立ちと回復の促進について	
15	感覚器系病理検査	感覚器疾病の成り立ちと回復の促進について、病理検査の方法等について	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	基礎医学Ⅲ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	ナーシンググラフィカ疾患の成り立ち③臨床微生物・医動物（メディカ出版）						
科目概要	<p>感染は、微生物（ウイルス、細菌、真菌、寄生虫など）が体内に侵入し増殖することを言う。感染経路も様々であるため侵入経路の遮断が必要であり、感染防止は医療従事者にとって重要な部分である。救急救命士国家試験では、一般問題によく出題される、その為感染症、感染経路、標準予防策の理解が深まるよう講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染と感染症とは異なることを理解する。 2. 感染経路は標準予防策の根幹であることを理解する。 3. 特に注意が必要な、飛沫感染、空気感染の感染経路を理解する。 4. 免疫系の種類と役割を理解できる。 5. 即時型アレルギーについて理解する。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>各授業ごとに質問時間を設け理解されたかどうか確認をする。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>国家試験対策として、文章の読解力が必須であるため、医療系の本を（できれば小説）を読むこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	感染症	微生物とは	
2	感染症	ウイルス	
3	感染症	細菌	
4	感染症	真菌、寄生虫	
5	感染症	感染の成り立ち	
6	感染症	感染経路	
7	感染症	感染経路	
8	感染症	耐性菌と菌交代現象	
9	感染症	日和見感染	
10	免疫	免疫の役割	
11	免疫	免疫の仕組み	
12	免疫	非特異的免疫、特異的免疫、液性免疫	
13	免疫	能動免疫、受動免疫	
14	免疫	アレルギーⅠ型、Ⅱ型、Ⅲ型	
15	まとめ	まとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	1
科目名	基礎医学IV <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	斎藤 美都江		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、死体現象などの知識を身につけるだけでなく、「死」について深く考えることができるよう講義する。本講義では国家試験の得点源とするためにテキスト記載事項をより深めた内容とする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 死の概念を理解できる。 2. 早期死体現象を理解できる。 3. 晚期死体現象を理解できる。 4. 縊頸・絞頸について理解できる。 5. 「死」について深く考える機会になる。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度と課題レポートを点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格にかかわらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら、問題の解説を実施する。</p>						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	死の概念	日本での死の概念、心臓死の三徴候	
2	死の概念	脳死、植物状態、臓器移植、死体の尊厳	
3	死の概念	死にかかわる手続きと検査	
4	死体現象	早期死体現象①	
5	死体現象	早期死体現象②	
6	死体現象	晚期死体現象	
7	縊頸	縊頸の定義、分類、観察、処置	
8	絞頸・扼頸	絞頸・扼頸の定義、観察、処置・自殺	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	薬物と検査Ⅰ			担当者	内山 央絵		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、基礎的な薬理学を理解するとともに、使用頻度の高い薬（常用薬）についても一般的な知識を付けさせ、救急救命士が使用できる薬剤についての薬理作用、使用できる要件および副作用について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物とは何か、また薬物の代謝を説明できる。 2. 薬物の投与経路の違いについて説明できる。 3. アドレナリンの薬理作用を説明できる。 4. 乳酸リンゲル液の薬理作用を説明できる。 5. ブドウ糖の薬理作用を説明できる。 6. 常用薬の薬理作用を説明できる。 7. 各輸液製剤や血液製剤について説明できる。 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら、問題の解説を実施する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医薬品の基礎	医薬品とは	
2	医薬品の基礎	薬物の体内動態	
3	医薬品の基礎	薬物の投与経路	
4	医薬品の基礎	有害作用・薬物中毒	
5	医薬品の基礎	薬物アレルギー	
6	重要な医薬品	アドレナリン	
7	重要な医薬品	乳酸リンゲル液	
8	重要な医薬品	糖尿病についての病態生理	
9	重要な医薬品	ブドウ糖	
10	重要な医薬品	経口糖尿病薬・インスリン・亜硝酸薬 降圧薬・気管支拡張薬	
11	重要な医薬品	利尿薬・向精神薬・抗凝固薬 抗血小板薬・勃起不全治療薬・抗てんかん薬	
12	重要な医薬品	ステロイド・感冒薬・鎮痛薬 睡眠薬・抗菌薬	
13	重要な医薬品	輸液製剤・昇圧薬	
14	重要な医薬品	血液製剤	
15	まとめ	まとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	薬物と検査Ⅱ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士としての国家試験対策とともに、他施設での実習で知っておいた方が良くと思われることを重点に履修します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 12誘導心電計の操作ができて心電図が正しく取れること。 2. 基本的な正常心電図の波形を理解すること。 3. 異常心電図を診断できること。（心筋梗塞、狭心症、RonT、心室細動、心停止、重篤な不整脈等） 4. 尿、血液検査の結果から異常を見つけることができること。 5. 超音波検査やX線写真、MRIなどの生理学的検査の意味がわかること。 6. 感染症対策についての理解と実践。 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	講義中の質問はいつでも自由とし、理解できないなことがないようにする。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	心電図実習①	4名～5名のグループ毎に心電計の正しい操作と心電図の正しい撮り方を学ぶ。	
2	心電図実習②	4名～6名のグループ毎に心電計の正しい操作と心電図の正しい撮り方を学ぶ。	
3	心電図実習③	4名～7名のグループ毎に心電計の正しい操作と心電図の正しい撮り方を学ぶ。	
4	心電図の読解	心電図の基本的な読み方と以上心電図の意味を理解する。	
5	尿、血液検査の読み方①	尿検査と血液検査の正常、異常を判断する。	
6	血液検査の読み方,感染症対策を理解する。	生化学検査の結果が読めるようにする。感染症の対策が具体的に行えるようにする。	
7	生理学的検査の読み方	呼吸器検査、超音波検査、X線検査、MRI、CT等の検査について学ぶ。	
8	まとめと試験	試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	社会保障・社会福祉 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	齋藤 美都江		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	看護師の実務経験を活かし、社会保障制度、社会福祉制度にかかわる基礎知識について講義する。本講義では国家試験の得点源とするためにテキスト記載事項をより深めた内容とする。						
到達目標	1. 日本の保健医療制度の仕組みと現状を理解する。 2. 日本の社会保障と社会福祉を支える仕組みを理解する。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格にかかわらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら、問題の解説を実施する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医療を取り巻く環境	人口構造の変化、疾病構造の変化	
2	医療供給体制	保健医療従事者、医療機関	
3	医療供給体制	医療計画、在宅医療と地域包括ケア	
4	社会保障・福祉の仕組み	社会保障・福祉の理念、行政組織	
5	社会保険と制度	関連施設、社会保障の費用	
6	社会保険と制度	社会保険制度の理念	
7	社会保険と制度	医療保険制度①	
8	社会保険と制度	医療保険制度②	
9	社会保険と制度	介護保険制度	
10	社会保険と制度	年金保険制度	
11	社会福祉と制度	生活保護	
12	社会福祉と制度	児童福祉	
13	社会福祉と制度	高齢者福祉	
14	社会福祉と制度	母子および寡婦福祉	
15	社会福祉と制度	障害者福祉	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急医学概論Ⅰ			担当者	鈴木 俊彦		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	<p>救急救命士の実務経験を活かし、医療体制、救急活動の流れや法令について解説する。なお、この科目は救急救命士国家試験出題基準に定められており、必修問題の一般問題で必ず出題される分野である。本講義では国家試験に多く出題される内容を重点的に講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療体制、災害医療体制、病院前医療体制を理解する 2. 消防機関における救急活動の流れ、及び役割と責任を理解する 3. 救急救命士に関連する法律を理解する 4. 救急救命士の生涯教育の目的について説明できる 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・試験後、答案用紙のみを回収し、解答を掲示する。 ・自己採点后不明な点の質問を受け付ける。 ・担任を通してクラス全員の点数を公表する。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>救急救命士国家試験は文章の理解能力が必要なため、まずは活字を読むこと、出来れば医療系の小説を読むことが望ましいと考える。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急医療体制	救急業務の沿革 救急医療を構成する体制	
2	救急医療体制	病院前救護体制 (応急救護)	
3	救急医療体制	病院前救護体制 (救急搬送・病院前診療)	
4	救急医療体制	救急受け入れ体制 (救急告示病院・救急医療機関・体制の一元化)	
5	救急医療体制	救急受け入れ体制 (周産期・精神・小児救急医療体制、情報システム)	
6	救急医療体制	メディカルコントロール	
7	救急活動の流れ	119番通報受信と通信体制・出動 現場活動(状況評価)	
8	救急活動の流れ	現場活動 (初期評価・全身観察と重点観察・緊急度重症度判断)	
9	救急活動の流れ	現場活動 (応急処置・医療機関選定・車内活動・医師への引継ぎ)	
10	救急活動の流れ	通信体制・救急活動の記録・ 関係機関との連携	
11	救急救命士に関する法令	法令の基本・救急救命士法 (目的・国家資格・養成課程)	
12	救急救命士に関する法令	救急救命士法 (業務場所・救急救命処置・特定行為・義務と罰則)	
13	救急救命士に関する法令	医師法・保健師助産師看護師法・消防法	
14	救急救命士に関する法令	その他の法令	
15	救急救命士の生涯教育	生涯教育の目的、自己研鑽、病院実習	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急医学概論Ⅱ			担当者	斎藤 美都江		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、看護学・災害医療体制・安全管理・感染対策について講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史と概念を知り、救急救命士の業務との共通点を理解できる。 2. トリアージの概念と目的を理解できる。 3. インシデントとアクシデントの概念、ハインリッヒの法則を理解できる。 4. 事故発生時の対応の原則について理解できる。 5. 感染経路別の感染予防法を理解できる。 6. 標準予防策の意義と内容、方法を理解できる。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。</p>						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護の概要	看護の歴史・「看護」と救急救命士の関連	
2	看護の概要	診療の補助・看護技術	
3	災害医療体制	災害の概念	
4	災害医療体制	多数傷病者対応	
5	災害医療体制	トリアージ	
6	災害医療体制	大規模災害	
7	災害医療体制	大規模災害	
8	災害医療体制	特殊災害	
9	安全管理と事故対応	安全管理・リスクマネジメント・傷病者の事故	
10	安全管理と事故対応	救急救命士等の事故・医療事故と医療過誤・救急活動における事故の報告と対応	
11	感染対策	感染予防策と感染防御・救急活動での感染防御	
12	感染対策	洗浄と消毒	
13	感染対策	感染事故と事故後の対応	
14	感染対策	【演習】手洗い・マスクと手袋の着脱	
15	復習	復習	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	救急救命学科				配当時間	15	対象年次	1
科目名	救急医学概論Ⅲ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	斎藤 美都江		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版							
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、傷病者の心理を推測しながらコミュニケーションをとる力を養う内容を講義だけでなく、演習を交えて行う。また、危険・悲惨な現場での救急活動も多い。発生しやすいストレス反応やストレス障害について学び、ストレス耐性を高められる知識を講義する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急活動に必要なコミュニケーションの技法と要点について理解できる。 2. 様々な状況にある傷病者の気持ちを推測し、コミュニケーションを取る際の工夫を考えることができる。 3. ストレス、ストレス反応、ストレス障害についての要点を理解できる。 4. 急性ストレス反応・PTSDの概要、症状、対応、予防について理解できる。 							
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>							
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。</p>							
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急活動時の コミュニケーション	対象に応じたコミュニケーション①	
2	救急活動時の コミュニケーション	対象に応じたコミュニケーション②	
3	救急活動時の コミュニケーション	救急活動での説明	
4	救急活動時の コミュニケーション	人生の最終段階にある者への対応	
5	ストレスに対する マネージメント	自己発見テスト	
6	ストレスに対する マネージメント	救急活動でのストレス	
7	ストレスに対する マネージメント	ストレスへの対応	
8	救急活動時の コミュニケーション	接遇とコミュニケーションの種類	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急救命処置概論Ⅰ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	齋藤 慈		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 救急処置スキルブック（改訂版）、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、救急現場における観察のポイント、救急救命処置に繋げるための情報収集、及び重症度・緊急度判断について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> バイタルサインの概念および正常値について説明できる。 JCSおよびGCSを用いて意識レベルを評価できる。 各種観察手段を列挙し、その方法と内容を説明できる。 全身状態の把握において観察すべき項目を列挙し、緊急度・重症度の高さを示す症候を列挙できる。 						
評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> 筆記方式での期末試験を実施し、60点以上を合格として単位認定を行う。 小テストの成績、受講態度、提出物状況等を総合的に判断し、期末試験結果に加減する。 <p>※評価基準および単位認定については「救急救命学科細則」に則る。</p>						
成績評価の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に実施する小テストに基準点を設け、基準に満たない場合は課題の再提出を求めるとともに、誤答であった箇所に対する解説を実施する。 期末試験前に確認試験を実施し、解説するとともに定期試験対策とする。 期末試験は問題、答案用紙ともに全回収し、正答表および成績のみ開示する。 期日を設け疑義を受け付ける。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造および機能について学習し、理解しておくことが望ましい。 コミュニケーションの手法について理解しておくことが望ましい。 						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	観察総論	観察の目的と意義・バイタルサイン	
2	観察総論	バイタルサイン	
3	観察総論	観察の方法（問診）	
4	観察総論	観察の方法（視診・聴診）	
5	観察総論	観察の方法（触診・打診）	
6	全身状態の観察	外見の観察	
7	全身状態の観察	気道に関する観察 呼吸に関する観察（呼吸の有無）	
8	全身状態の観察	呼吸に関する観察（呼吸の性状）	
9	全身状態の観察	循環に関する観察（脈拍）	
10	全身状態の観察	循環に関する観察（血圧）	
11	緊急度・重症度判断	意識状態に関する観察	
12	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度	
13	緊急度・重症度判断	判断の基準（分類・基準）	
14	緊急度・重症度判断	判断の基準（基準）	
15	復習	復習	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急救命処置概論Ⅱ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	若山 卓哉		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、局所（各部位）の観察・神経所見の観察・救急救命士が使用する資器材による観察について講義する。						
到達目標	<p>1. 身体の各部位ごとに、観察すべき項目と観察方法を説明できるとともに、その結果から判断される病態または疾患を列挙できる。</p> <p>2. 観察用資器材を列挙できるとともに、その使用目的、適応、原理・構造、使用方法、留意点、評価についてそれぞれ説明できる。</p>						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造および機能について学習し、理解しておくことが望ましい。 ・コミュニケーションの手法について理解しておくことが望ましい。 						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	局所の観察	観察結果の表現・皮膚	
2	局所の観察	頭部・顔面・頸部	
3	局所の観察	胸部・背部	
4	局所の観察	腹部	
5	局所の観察	鼠径部・会陰部・骨盤	
6	局所の観察	四肢	
7	神経所見の観察	運動機能（運動麻痺）	
8	神経所見の観察	運動機能（反射・運動失調）	
9	神経所見の観察	感覚	
10	神経所見の観察	髄膜刺激症候・失語症と構音障害	
11	神経所見の観察	脳卒中スケール・神経学的異常の観察方法	
12	資器材による観察	パルスオキシメーター・カプノメーター	
13	資器材による観察	聴診器・血圧計	
14	資器材による観察	心電図モニター	
15	資器材による観察	体温計・血糖測定器	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急救命処置概論Ⅲ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	内山 央絵		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、救急救命士が業務として行う各種救急救命処置（特定行為を除く）の方法について講義する。						
到達目標	1. 救急救命処置の定義を説明でき、含まれる処置名を列挙できる。 2. 各救急救命処置の目的、適応、禁忌、手技、合併症について説明できる。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 解剖を理解していることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急救命士が行う処置	処置の目的と意義・気道確保 (用手的気道確保)	
2	救急救命士が行う処置	気道確保 (エアウェイを用いた気道確保)	
3	救急救命士が行う処置	気道異物除去	
4	救急救命士が行う処置	口腔内吸引	
5	救急救命士が行う処置	酸素投与	
6	救急救命士が行う処置	酸素投与	
7	救急救命士が行う処置	人工呼吸	
8	救急救命士が行う処置	人工呼吸	
9	救急救命士が行う処置	電気ショック	
10	救急救命士が行う処置	体位管理	
11	救急救命士が行う処置	保温、止血	
12	救急救命士が行う処置	保温、止血	
13	救急救命士が行う処置	創傷処置	
14	救急救命士が行う処置	固定	
15	救急救命士が行う処置	固定	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	救急救命処置概論Ⅳ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	内山 央絵		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、救急救命士が業務として行う各種救急救命処置（特定行為）の方法について講義する。						
到達目標	1. 救急救命処置の定義を説明でき、含まれる処置名を列挙できる。 2. 各救急救命処置の目的、適応、禁忌、手技、合併症について説明できる。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 解剖を理解していることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保 (LM、i-jel)	
2	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保 (LT、コンビチューブ、スミウェイWB)	
3	救急救命士が行う処置	気管挿管 (目的、適応と禁忌、プロトコール)	
4	救急救命士が行う処置	気管挿管 (資器材の準備、方法と手順、注意点)	
5	救急救命士が行う処置	気管挿管 (ビデオ喉頭鏡、気管吸引)	
6	救急救命士が行う処置	静脈路確保と輸液 (目的、適応、プロトコール、資器材準備)	
7	救急救命士が行う処置	静脈路確保と輸液 (方法と手順)	
8	救急救命士が行う処置	静脈路確保と輸液 (評価、合併症、注意点)	
9	救急救命士が行う処置	アドレナリン投与 (心臓機能停止傷病者に対する)	
10	救急救命士が行う処置	アドレナリン投与 (心臓機能停止傷病者に対する)	
11	救急救命士が行う処置	アドレナリン投与 (アナフィラキ傷病者に対する)	
12	救急救命士が行う処置	ブドウ糖投与 (糖尿病)	
13	救急救命士が行う処置	ブドウ糖投与 (目的、適応、プロトコール)	
14	救急救命士が行う処置	ブドウ糖投与 (資器材準備、評価、合併症、注意点)	
15	復習		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	救急救命処置概論Ⅴ			担当者	内山 央絵		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、近年増加傾向である在宅療養及び傷病者の搬送方法について講義する。						
到達目標	1. 在宅療法の概要と発生し得る問題点、観察の注意移転と対処法について説明できる 2. 傷病者搬送の原則と注意点について説明できる 3. ボディメカニクスについて説明できる 4. 事故車両からの救出方法の種類を挙げ、それぞれの適応、手順、注意点について説明できる						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	在宅療法継続中 傷病者の処置	在宅医療とは、対応（呼吸補助療法）	
2	在宅療法継続中 傷病者の処置	対応（栄養補助療法）	
3	在宅療法継続中 傷病者の処置	対応（排泄補助療法）	
4	在宅療法継続中 傷病者の処置	対応（在宅注射療法、補助腎臓療法）	
5	傷病者搬送	搬送総論	
6	傷病者搬送	搬送方法	
7	傷病者搬送	搬送手順、ヘリコプターへの搬入と搬出	
8	傷病者搬送	事故車両からの救出方法	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	心肺停止			担当者	若山 卓哉		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、心肺停止傷病者の病態生理、成人および乳児に対する心肺蘇生法、それぞれの心肺停止傷病者に対する各種プロトコルに準拠した救急蘇生処置について講義する。						
到達目標	1、心肺停止の概念と疫学、ウツタイン様式の制定目的と内容を説明できる。 2、心肺停止に至る病態および心肺停止の病態生理について説明できる。 3、胸骨圧迫中の循環動態および心拍再開後の留意点について説明できる。 4、人工呼吸、胸骨圧迫の目的、適応、禁忌、手技合併症について説明できる。 5、成人、小児、乳児の心肺停止傷病者に対する救急救命士の各種業務プロトコルについて説明できる。 6、医療機関における二次救命処置と心拍再開後の治療について説明できる。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 総務省消防庁や各消防本部のホームページ等に掲載されている、一般市民向けの救急蘇生法解説等を積極的に閲覧し、理解を得ておくことが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	心肺停止 1	・ 総論 ・ 心肺停止に至る病態と原因①	
2	心肺停止 2	・ 心肺停止に至る病態と原因② ・ 心電図分類・心肺蘇生中の循環①	
3	心肺停止 3	・ 心肺蘇生中の循環② ・ 心拍再開後の病態	
4	効果確認 1	・ 効果確認試験①	
5	救急蘇生法 1	・ 成人の救急蘇生法① (蘇生ガイドライン、代表的プロトコル①)	
6	救急蘇生法 2	・ 成人の救急蘇生法② (代表的プロトコル②)	
7	救急蘇生法 3	・ 成人の救急蘇生法③ (代表的プロトコル③)	
8	救急蘇生法 4	・ 医療機関での治療	
9	効果確認 2	・ 効果確認試験②	
10	救急蘇生法 5	・ 小児の救急蘇生法	
11	救急蘇生法 6	・ 乳児の救急蘇生法	
12	効果確認 3	・ 効果確認試験③	
13	胸骨圧迫	・ 成人、小児、乳児に対する胸骨圧迫 ・ 目的、適応、方法/手順、評価、合併症等	
14	人工呼吸	・ 目的、適応、方法/手順、評価、注意点	
15	効果確認 4	・ 効果確認試験④ ・ 定期試験対策	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	救急症候学Ⅰ			担当者	齋藤 慈		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 病気がみえる7「脳・神経」						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、重症脳障害（脳ヘルニア）・意識障害・一過性意識消失について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意識障害の種類と発症機序を理解する 2. 頭蓋内圧亢進の発症機序と症候について理解する 3. 脳ヘルニアの種類とその発症機序について理解する 4. 意識障害の分類と特徴、原因疾患を列挙し理解する 5. 失神の定義と発症機序について理解する 						
評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記方式での期末試験を実施し、60点以上を合格として単位認定を行う。 ・小テストの成績、受講態度、提出物状況等を総合的に判断し、期末試験結果に加減する。 <p>※評価基準および単位認定については「救急救命学科細則」に則る。</p>						
成績評価の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に実施する小テストに基準点を設け、基準に満たない場合は課題の再提出を求めるとともに、誤答であった箇所に対する解説を実施する。 ・期末試験前に確認試験を実施し、解説するとともに定期試験対策とする。 ・期末試験は問題、答案用紙ともに全回収(正答表および成績のみ開示する。) ・期日を設け疑義を受け付ける。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>中学、高等学校までの「生物」等の授業で扱われる、脳や神経系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	重症脳障害 1	・ 総論 ・ 発症機序	
2	重症脳障害 2	・ 一次性/二次性脳病変 ・ 頭蓋内圧亢進	
3	重症脳障害 3	・ 頭蓋内圧亢進	
4	重症脳障害 4	・ 脳ヘルニア	
5	重症脳障害 5	・ 特殊な意識障害	
6	効果確認 1	・ 効果確認小テスト①	
7	意識障害 1	・ 原因 ・ 随伴症状	
8	意識障害 2	・ 判別を要する病態	
9	意識障害 3	・ 緊急度重症度判断、現場活動	
10	効果確認 2	・ 効果確認小テスト②	
11	一過性意識消失/失神 1	・ 定義概念 ・ 原因（起立性低血圧、心血管性失神）	
12	一過性意識消失/失神 2	・ 原因（てんかん発作、くも膜下出血、 椎骨脳底動脈循環不全）	
13	一過性意識消失/失神 3	・ 原因（代謝性疾患、過換気症候群、 解離性昏迷）	
14	一過性意識消失/失神 4	・ 緊急度重症度判断・現場活動	
15	総復習		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急症候学Ⅱ			担当者	齋藤 慈		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 病気がみえる7「脳・神経」						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、頭痛・痙攣・運動麻痺・めまいについて講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭痛の発症機序と分類、原因疾患と随伴症状を列挙し説明できる。 2. 痙攣の定義と病態、種類と原因疾患を列挙し説明できる。 3. 運動麻痺の発症機序と分類、原因疾患と随伴症状を列挙し説明できる。 4. めまいの発症機序と分類、原因疾患と随伴症状を列挙し説明できる。 5. 各症候における緊急度と重症度判断、現場活動のポイントを説明できる。 						
評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記方式での期末試験を実施し、60点以上を合格として単位認定を行う。 ・小テストの成績、受講態度、提出物状況等を総合的に判断し、期末試験結果に加減する。 <p>※評価基準および単位認定については「救急救命学科細則」に則る。</p>						
成績評価の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に実施する小テストに基準点を設け、基準に満たない場合は課題の再提出を求めるとともに、誤答であった箇所に対する解説を実施する。 ・期末試験前に確認試験を実施し、解説するとともに定期試験対策とする。 ・期末試験は問題、答案用紙ともに全回収(正答表および成績のみ開示する。) ・期日を設け疑義を受け付ける。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>中学、高等学校までの「生物」等の授業で扱われる、脳や神経系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	頭 痛 1	・ 発症機序、分類	
2	頭 痛 2	・ 原因疾患、発症状況	
3	頭 痛 3	・ 性状、随伴症状 ・ 緊急度重症度、現場活動	
4	痙 攣 1	・ 定義概念、病態 ・ 分類、原因疾患	
5	痙 攣 2	・ 随伴症状	
6	痙 攣 2	・ 広義の痙攣、判別を要する病態 ・ 緊急度重症度判断、現場活動	
7	効果確認 1	・ 効果確認小テスト①	
8	運動麻痺 1	・ 定義概念、発症機序	
9	運動麻痺 2	・ 分類、原因疾患	
10	運動麻痺 3	・ 随伴症状、判別を要する病態	
11	運動麻痺 4	・ 緊急度重症度判断、現場活動	
12	めまい 1	・ 定義概念、発症機序	
13	めまい 2	・ 分類、原因疾患	
14	めまい 3	・ 随伴症状 ・ 緊急度重症度判断、現場活動	
15	効果確認 2	・ 効果確認小テスト② ・ 定期試験対策	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急症候学Ⅲ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	内山 央絵		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、心不全・ショック・胸痛・動悸について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心不全の定義を説明できる 2. 心不全の病態生理、症候、種類を理解する 3. ショックの定義を説明できる 4. ショックを発症機序により4つに分類し、その病態を説明できる 5. 各種ショックにおける循環動態の変化を理解する 6. 胸痛・動悸について、定義、症候、重症度・緊急度、処置を説明できる 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「生物」等の授業で扱われる、呼吸系や循環器系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	心不全 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義と概念 ・ 原因疾患 	
2	心不全 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病態生理 ・ 症候 	
3	心不全 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種類 	
4	心不全 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性心不全の急性増悪 	
5	ショック 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義と概念 ・ 種類と分類 / 病態 	
6	ショック 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義と概念 ・ 種類と分類 / 病態 	
7	ショック 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 循環血液量減少性ショック 	
8	ショック 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心原性ショック 	
9	ショック 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心外閉塞拘束性ショック ・ 血液分布異常性ショック 	
10	胸痛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義・概念、発症機序 	
11	胸痛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原因疾患 	
12	胸痛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急度・重症度の判断、現場活動 	
13	動悸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義・概念、発症機序、原因疾患 	
14	動悸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随伴症状、緊急度・重症度、現場活動 	
15	復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験対策 	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	救急症候学Ⅳ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	内山 央絵		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、呼吸不全・呼吸困難・喀血について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸不全の定義を説明できる 2. 低酸素血症/高二酸化炭素血症の発症機序とその影響について理解する 3. 換気障害の種類を列挙できる 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「生物」等の授業で扱われる、呼吸系や循環器系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	呼吸器解剖	解剖生理	
2	呼吸不全	定義と概念 基本的病態	
3	呼吸不全	低酸素血症の発症機序	
4	呼吸不全	高二酸化炭素血症の発症機序	
5	呼吸不全	換気障害の種類	
6	呼吸困難	定義/概念 分類	
7	呼吸困難	原因疾患	
8	呼吸困難	随伴症状	
9	呼吸困難	緊急度重症度判断 現場活動	
10	喀血	定義 分類	
11	喀血	喀血による影響 原因疾患	
12	喀血	原因疾患	
13	喀血	判別を要する病態	
14	喀血	緊急度・重症度 現場活動	
15	復習	定期試験対策	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	救急症候学Ⅴ			担当者	若山 卓哉		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、腹痛・吐血・下血・腰痛・背部痛・体温上昇について講義する。						
到達目標	各救急症候について、定義、病態生理・症候、重症度・緊急度、現場活動（処置）を理解させる。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「生物」等の授業で扱われる、呼吸系や循環器系、消化器系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	腹痛	発症機序	
2	腹痛	原因疾患 部位	
3	腹痛	既往歴	
4	腹痛	随伴症状 現場活動	
5	吐血・下血	定義・概念	
6	吐血・下血	原因疾患 判断の必要な病態	
7	吐血・下血	緊急度・重症度 現場活動	
8	腰痛・背部痛	定義・概念	
9	腰痛・背部痛	原因疾患	
10	腰痛・背部痛	緊急度・重症度	
11	腰痛・背部痛	現場活動	
12	体温上昇	定義・概念 発症機序 病態	
13	体温上昇	発症の分類と種類 原因疾患	
14	体温上昇	緊急度・重症度 現場活動	
15	まとめ	総復習	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	疾病救急医学Ⅰ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	齋藤 慈		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 病気がみえる7「脳・神経」						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、神経系疾患・目耳鼻疾患について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の救急疾患で重要な症候の概要を説明できる。 2. 神経系疾患の傷病者に対する現場活動を実践できる。 3. 脳血管障害と脳卒中の概念を説明できる。 4. 目・耳・鼻疾患でみられる主な症候をあげ、概要を説明できる。 5. 目・耳・鼻疾患の緊急度・重症度の要点を説明できる。 						
評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記方式での期末試験を実施し、60点以上を合格として単位認定を行う。 ・小テストの成績、受講態度、提出物状況等を総合的に判断し、期末試験結果に加減する。 <p>※評価基準および単位認定については「救急救命学科細則」に則る。</p>						
成績評価の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に実施する小テストに基準点を設け、基準に満たない場合は課題の再提出を求めるとともに、誤答であった箇所に対する解説を実施する。 ・期末試験前に確認試験を実施し、解説するとともに定期試験対策とする。 ・期末試験は問題、答案用紙ともに全回収(正答表および成績のみ開示する。) ・期日を設け疑義を受け付ける。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>中学、高等学校までの「生物」等の授業で扱われる、脳や神経系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	神経系疾患・総論 1	・疫学、主要症候	
2	神経系疾患・総論 2	・主要症候（復習）、基本的対応	
3	脳血管障害 1	・概要	
4	脳血管障害 2	・脳梗塞	
5	脳血管障害 3	・一過性脳虚血発作	
6	脳血管障害 4	・くも膜下出血	
7	脳血管障害 5	・脳出血	
8	脳血管障害 6	・中枢神経系の感染症	
9	脳血管障害 7	・末梢神経疾患	
10	脳血管障害 8	・その他の中枢神経疾患（てんかん）	
11	脳血管障害 9	・その他の中枢神経疾患（脳腫瘍、変性疾患）	
12	眼・耳・鼻の疾患 1	・総論	
13	眼・耳・鼻の疾患 2	・眼の疾患	
14	眼・耳・鼻の疾患 3	・耳の疾患 ・鼻の疾患	
15	総復習	・効果確認小テスト ・定期試験対策	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	疾病救急医学Ⅱ			担当者	内山 央絵		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、呼吸器系疾患・循環器系疾患について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系疾患と循環器系疾患の症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。 2. 呼吸器系疾患と循環器系疾患の緊急度・重症度判断について説明できる。 3. 主要な疾患の発症機序・基本的対応について説明できる。 4. 呼吸器系疾患と循環器系疾患の処置・搬送の要点を説明できる。 5. 心電図の原理、誘導法、意義、基本波形について説明できる。 6. 心電図異常をきたす病態をあげ、それぞれの典型的な心電図を判読できる。 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「生物」等の授業で扱われる、呼吸系や循環器系の仕組みや成り立ちについての基礎的な知識の習得と復習がなされていることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	呼吸器系疾患総論	・疫学、主要徴候、基本的対応	
2	上気道の疾患	・急性喉頭蓋炎 ・扁桃周囲膿瘍	
3	下気道と肺胞の疾患 1	・気管支喘息（重積発作） ・無気肺	
4	下気道と肺胞の疾患 2	・慢性閉塞性肺疾患（COPD） ・気管支拡張症	
5	感染症	・肺炎 ・肺結核 ・急性上気道炎	
6	胸膜疾患	・気胸 ・胸膜炎	
7	その他の呼吸系疾患 1	・過換気症候群 ・肺癌 ・急性呼吸促迫症候群(ARDS) ・間質性肺炎	
8	循環器系疾患総論	・疫学、主要徴候、基本的対応	
9	動脈硬化・虚血性心疾患1	・動脈硬化症 ・急性冠症候群 ・狭心症	
10	虚血性心疾患 2	・急性心筋梗塞	
11	心筋・心膜疾患	・心筋症 ・心筋炎 ・心タンポナーデ ・急性心膜炎	
12	その他の心疾患	・心臓弁膜症 ・感染性心内膜炎 ・先天性心疾患	
13	血管疾患	・急性大動脈解離・急性四肢動脈閉塞症 ・深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症 等	
14	高血圧	・高血圧症 ・高血圧緊急症	
15	不整脈、心電図	・頻脈性・徐脈性不整脈の心電図 ・その他の心電図異常とその対応	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	疾病救急医学Ⅲ			担当者	若山 卓哉		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、消化器系疾患・泌尿器系疾患・筋骨格系疾患について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器疾患の概要と症候、及び対応について説明できる。 2. 腎・泌尿器、生殖系疾患の概要と重要な症候、および対応について説明できる。 3. 筋・骨格系疾患でみられる主な症候をあげ、概要を説明できる。 4. 緊急度重症度判断及び対応について説明できる。 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 消化器系・泌尿器系の解剖ならびに感覚神経について理解しているのが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	消化器系疾患総論 歯・口腔疾患	・疫学、主要症候、基本的対応 ・齲蝕、顎骨骨髓炎、その他	
2	食道疾患	・食道静脈瘤破裂・マロリーワイス症候群 ・ブルハーフェ（特発性食道破裂）	
3	胃・十二指腸疾患	・胃・十二指腸潰瘍 ・急性胃粘膜病変 ・急性胃腸炎 ・アニサキス症 ・胃癌	
4	腸疾患 1	・腸閉塞 ・上腸間膜動脈閉塞症 ・ヘルニア嵌頓 ・急性虫垂炎	
5	腸疾患 2	・大腸穿孔・大腸憩室炎・虚血性大腸炎 ・大腸癌・炎症性腸疾患・急性腹膜炎	
6	肝臓・胆道・膵臓疾患 1	・急性肝炎 ・肝硬変 ・肝不全 ・肝癌	
7	肝臓・胆道・膵臓疾患 2	・胆石症 ・急性胆道感染症 ・急性膵炎	
8	泌尿・生殖系疾患総論	・疫学、主要症候、基本的対応	
9	腎疾患	・急性腎障害 ・慢性腎障害 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群	
10	尿路疾患	・尿路結石・急性腎盂腎炎・急性細菌性前立腺炎・前立腺肥大・神経因性膀胱	
11	生殖系疾患	卵巣囊腫捻転、子宮筋腫 精巣捻転症、精巣炎	
12	筋・骨格系疾患 1	・疫学、主要症候、基本的対応 ・脊椎疾患	
13	筋・骨格系疾患 2	・脊椎疾患	
14	筋・骨格系疾患 3	・関節疾患	
15	筋・骨格系疾患 4	・筋疾患	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	疾病救急医学Ⅳ			担当者	内山 央絵		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、内分泌栄養系疾患・血液免疫系疾患・皮膚系疾患について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝系疾患の概要と重要な症候、及び対応について説明できる。 2. 内分泌系疾患の概要と重要な症候、及び対応について説明できる。 3. 栄養系疾患の概要と重要な症候、及び対応について説明できる。 4. 免疫系疾患の概要と重要な症候、及び対応について説明できる。 5. 血液・免疫系疾患の概要と重要な症候、及び対応について説明できる。 6. 皮膚系疾患の概要と重要な症候、及び対応について説明できる。 						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 身体における代謝について理解していることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	代謝・内分泌・ 栄養系疾患総論	・ 主要症候、基本的対応	
2	糖尿病とその合併症 1	・ 糖尿病の概念、疫学、分類	
3	糖尿病とその合併症 2	・ 糖尿病の合併症、治療法	
4	糖尿病とその合併症 3	・ 低血糖	
5	糖尿病とその合併症 4	・ 糖尿病ケトアシドーシス ・ 高浸透圧高血糖症候群	
6	その他の代謝異常	・ 体液異常 ・ 電解質異常 ・ 酸塩基平衡異常	
7	内分泌疾患	・ 甲状腺機能亢進症 ・ 甲状腺機能低下症 ・ 副腎機能異常	
8	栄養疾患	・ BMI ・ ビタミン欠乏	
9	血液・免疫系疾患総論	・ 主要症候	
10	血液系疾患	・ 貧血・血小板減少症・白血病・血友病 ・ 紫斑病・播種性血管内凝固症候群 等	
11	免疫系疾患	・ アレルギー性疾患 ・ 自己免疫疾患 ・ 膠原病	
12	アナフィラキシー	・ 定義、概念、症候、対応	
13	皮膚系疾患総論	・ 主要症候、基本的対応	
14	皮膚・軟部組織の感染症	・ アレルギー性皮膚炎 ・ 薬疹	
15	アレルギー性疾患 その他の皮膚疾患	・ 接触皮膚炎 ・ 褥瘡	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	疾病救急医学Ⅴ			担当者	齋藤 慈		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、感染症・精神障害について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症で一般的な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。 2. 精神障害の疫学、それぞれの症候について説明できる。 3. 自殺企図の傷病者に対する対応を実践できる。 4. 傷病者への対応時に必要な法律をあげ、概要を説明できる。 						
評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記方式での期末試験を実施し、60点以上を合格として単位認定を行う。 ・小テストの成績、受講態度、提出物状況等を総合的に判断し、期末試験結果に加減する。 <p>※評価基準および単位認定については「救急救命学科細則」に則る。</p>						
成績評価の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に実施する小テストに基準点を設け、基準に満たない場合は課題の再提出を求めるとともに、誤答であった箇所に対する解説を実施する。 ・期末試験前に確認試験を実施し、解説するとともに定期試験対策とする。 ・期末試験は問題、答案用紙ともに全回収(正答表および成績のみ開示する。) ・期日を設け疑義を受け付ける。 						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	感染症総論	・疫学、感染症法、予防接種、徴候、 基本的対応	
2	敗血症・結核・ インフルエンザ	・疫学、病態、症候	
3	食中毒	・ノロウイルス ・腸管出血性大腸菌 ・その他の食中毒	
4	輸入感染症	・マラリア ・細菌性赤痢 ・デング熱 ・アメーバ赤痢・中東呼吸器症候群	
5	発疹性感染症・性感染症	・麻疹 ・風疹 ・水痘 ・ HIV ・ AIDS	
6	皮膚軟部組織の感染症・他	・壊死性筋膜炎 ・蜂窩織炎 ・破傷風 ・ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 等	
7	総論	・分類、疫学、主要徴候、基本的対応	
8	統合失調症	・搬送先の選定、医療機関選定と入院形態	
9	気分障害等	・気分障害、器質性精神障害、中毒性障害	
10	アルコール関連障害	・アルコール依存・乱用と関連が強い身体疾患 ・覚醒剤乱用・依存 ・危険ドラッグ	
11	その他の精神障害	・パニック障害 ・心的外傷後ストレス障害	
12	その他の精神障害	・解離性（転換性）障害 ・摂食障害	
13	その他の精神障害	・パーソナル障害 ・精神遅滞 ・広汎性発達障害	
14	向精神薬の主な副作用	・悪性症候群 ・セロトニン症候群	
15	総復習	試験対策	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	疾病救急医学VI <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	斎藤 美都江		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、小児疾患・高齢者疾患について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の正常な発育の目安を説明できる 2. 期ごとの児のバイタルサイン正常値を説明できる 3. 緊急度重症度判断について説明できる 4. 主要な疾患とその発症機序、特徴的な症候について理解する 5. 加齢による身体及び精神の変化を理解できる。 6. 高齢者に特徴的な疾患の症候について理解できる。 7. 小児傷病者・高齢者から病歴聴取を行う際の注意点について理解できる。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>既習で関連する科目（解剖学、観察、救急処置学、疾病救急医学など）の復習をしておくことが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児に特有な疾患 1	・ 総論 ・ 観察と判断	
2	小児に特有な疾患 2	・ 主な疾患（神経系疾患、呼吸系疾患）	
3	小児に特有な疾患 3	・ 主な疾患（消化系疾患、感染症）	
4	小児に特有な疾患 4	・ 主な疾患（その他の疾患）	
5	高齢者に特有な疾患 1	・ 総論（加齢による変化、高齢者疾患の特徴）	
6	高齢者に特有な疾患 2	・ 総論（高齢者の置かれた状況、高齢傷病者への対応、高齢者虐待）	
7	高齢者に特有な疾患 3	・ 主な疾患（認知症、せん妄、誤嚥性肺炎、脱水）	
8	高齢者に特有な疾患 4	・ 主な疾患（骨粗鬆症、褥瘡、廃用症候群）	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	疾病救急医学Ⅶ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	斎藤 美都江		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、妊娠・分娩の分野について解説し、疾患ごとの特徴的所見や症候はもとより、緊急度重症度判断の基準、及び禁忌事項・留意事項について講義する。また、妊娠のしくみから正常/異常妊娠/分娩、分娩介助を方法について講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の正常な発育の目安を説明できる 2. 期ごとの児のバイタルサイン正常値を説明できる 3. 緊急度重症度判断について説明できる 4. 主要な疾患とその発症機序、特徴的な症候について理解する 5. 加齢による身体及び精神の変化を理解できる。 6. 高齢者に特徴的な疾患の症候について理解できる。 7. 小児傷病者・高齢者から病歴聴取を行う際の注意点について理解できる。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>既習で関連する科目である解剖学（生殖器系・内分泌系）の復習をしておくことが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論	関連解剖復習、妊娠のしくみ	
2	妊娠の異常	正常妊娠	
3	妊娠の異常	異常妊娠①（妊娠高血圧症候群、異所性妊娠、流産、早産）	
4	妊娠の異常	異常妊娠②（子癇、前置胎盤、常位胎盤早期剝離）	
5	分娩の異常	正常分娩	
6	分娩の異常	異常分娩①（弛緩出血、骨盤位分娩、子宮破裂）	
7	分娩の異常	異常分娩②（羊水塞栓、新生児仮死）	
8	救急救命士が行う処置	分娩介助、臍帯処置、新生児への対応	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	外傷救急医学Ⅰ			担当者	若山 卓哉		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 JPTECガイドブック改訂第2版、						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、JPTEC（外傷病院前救護ガイドライン）について解説し、外傷の受傷機転・病態生理学・現場活動について講義する。						
到達目標	1、死亡統計における外傷の位置づけ及び防ぎ得た外傷死について説明できる 2、力学的エネルギーと損傷の関係及びその分類について説明できる 3、特徴的な受傷機転とその病態について説明できる 4、外傷に伴う生体反応とその破綻のメカニズムについて説明できる 5、外傷に伴うショックとその対応について説明できる 6、JPTECの具体的内容及びロード&ゴー、トラウマバイパスについて説明できる						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり ・人体の解剖生理について学習し、その構造を理解している。 ・各種ショックについて学習し、その特性を理解している。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	疫学と外傷システム	・患者数 ・外傷による死亡	
2	受傷機転 1	・受傷機転とエネルギー	
3	受傷機転 2	・受傷機転とエネルギー	
4	受傷機転 3	・外傷の分類	
5	受傷機転 4	・主な受傷形態	
6	外傷の病態生理 1	・侵襲への反応	
7	外傷の病態生理 2	・外傷に伴うショック	
8	外傷の病態生理 3	・外傷によるショックに対する輸液	
9	現場活動 1：JPTECの概念 状況評価	意義、トラウマバイパス、情報収集、感染防 御、携行資器材、安全確保、応援要請	
10	現場活動 2：初期評価	頸椎保護、反応の確認、気道確保、 呼吸・循環・意識レベルの評価、処置	
11	現場活動 3：全身観察	頭部、顔面・頸部、胸部、腹部、骨盤部、 大腿・四肢、背面	
12	現場活動 4：SMRの判断	脊椎運動制限(SMR)の概念、方法、適応	
13	現場活動 5：収容後の活動 継続観察	目的、具体的活動 観察項目、処置の確認と評価	
14	現場活動 6：輸液	適応、タイミング、速度と量、その他	
15	現場活動 7：第 2 報と引継ぎ	内容、注意すべき容態変化	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	外傷救急医学Ⅱ			担当者	鈴木 俊彦		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 JPTECガイドブック改訂第2版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、各身体部位ごとに外傷の受傷機転・病態生理学・現場活動について講義する。						
到達目標	1、受傷機転の評価、生理学的評価、解剖学的評価の概要を理解する。 2、気道、呼吸、循環、体位、創傷のそれぞれについて処置を行える。 3、各受傷部位とショックの関連を理解し速やかな処置が行える。 4、症例問題との関連性を理解する。 5、緊急度、重症度の判断が即座にできる。						
評価方法 基準	筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり ・人体の解剖生理について学習し、その構造を理解している。 ・各種ショックについて学習し、その特性を理解している。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	頭部外傷	特徴、外力の作用機序、頭蓋骨骨折等	
2	頭部外傷	脳挫傷、外傷性クモ膜下出血、びまん性脳損傷、現場活動と処置	
3	顔面・頸部損傷	気道閉塞等、現場活動と処置	
4	脊椎・脊髄外傷	脊髄損傷、現場活動と処置	
5	胸部外傷	心損傷、心タンポナーデ、緊張性気胸等	
6	胸部外傷	血胸、外傷性窒息等	
7	胸部外傷	現場活動と処置	
8	腹部外傷	実質臓器損傷、後腹膜臓器損傷、腹壁損傷	
9	腹部外傷	現場活動と処置	
10	骨盤外傷	安定型骨盤骨折、不安定型骨盤骨折	
11	骨盤外傷	現場活動と処置	
12	四肢外傷	捻挫、脱臼、骨折、コンパートメント症候群	
13	四肢外傷	現場活動と処置	
14	皮膚・軟部組織外傷	クラッシュ症候群の処置	
15	まとめ	外傷の病態及び処置の復習	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	外傷救急医学Ⅲ			担当者	齋藤 美都江		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、E.M.T. Support Book						
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、小児に特有な外傷・高齢者に特有な外傷・妊婦に特有な外傷・熱傷・化学損傷・電撃症・刺咬症について解説し、受傷機転・病態生理学・現場活動について講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児・高齢者・妊婦の生理的・解剖学的特徴と外傷の関係について理解できる。 2. 小児・高齢者・妊婦に特徴的な外傷の概要を理解できる。 3. 熱傷の病態と傷病者の観察、判断、処置の基礎が理解できる。 4. 化学損傷の病態と傷病者の観察、判断、処置の基礎が理解できる。 5. 電撃症・雷撃症の病態と傷病者の観察、判断、処置の基礎が理解できる。 6. 刺咬症の病態と傷病者の観察、判断、処置の基礎が理解できる。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>小児、高齢者、妊婦の解剖生理の特徴について復習しておくことを望む。 解剖（特に皮膚、軟部組織）の復習をしておくことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児の外傷	小児の解剖学的特徴と外傷との関連	
2	小児の外傷	主な外傷（虐待、肘内障、若木骨折、上腕骨骨折、ピンポンボール骨折など）、現場活動	
3	高齢者の外傷	高齢者の解剖学的特徴と外傷との関連	
4	高齢者の外傷	大腿骨骨折、脊椎圧迫骨折、虐待など 現場活動	
5	妊婦の外傷	妊婦の解剖学的特徴と外傷との関連	
6	熱傷	受傷機転と病態	
7	熱傷	熱傷評価（初期評価、熱傷深度の判定、熱傷面積の測定法）	
8	熱傷	熱傷評価(重症度分類、緊急度・重症度判断) 熱傷時の処置	
9	化学損傷	各種の化学損傷	
10	化学損傷	化学損傷時の観察・処置	
11	電撃症・雷撃症	雷撃症の病態・観察・処置	
12	刺咬症	刺咬症（傷）とは・哺乳類による咬症	
13	刺咬症	爬虫類による咬症	
14	刺咬症	節足動物・海洋生物による刺咬症	
15	総復習		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	救急救命学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	環境障害・急性中毒 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	斎藤 美都江		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、E.M.T. Support Book						
科目概要	<p>看護師の実務経験を活かし、急性中毒・環境障害にかかわる基本的な知識と、急性中毒・環境障害による傷病者を適切に観察、判断、処置、搬送を行うために必要な知識について講義する。なお、本講義では国家試験の得点源とするためにテキスト記載事項をより深めた内容とする</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性中毒を起こす物質、各々の中毒症状と観察・処置の概要を理解できる。 異物、溺水、熱中症、偶発性低体温症の症状、観察・処置の要点を理解できる。 放射線、放射線が及ぼす影響、防護法、区域管理、観察・処置の要点を理解できる。 高山病、減圧障害、酸素欠乏症、凍傷の症状、観察・処置の要点を理解できる。 						
評価方法 基準	<p>筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、担任を通じて点数を公表する。また合格・不合格に関わらず希望者には、問題及び採点した解答用紙を見せながら問題の解説を実施する。</p>						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	中毒総論	定義と分類、病態と生理	
2	中毒総論	観察と処置、中毒情報	
3	中毒各論	急性アルコール中毒、医薬品中毒	
4	中毒各論	乱用薬物、農薬中毒	
5	中毒各論	工業用品中毒、ガス中毒	
6	中毒各論	自然毒中毒、家庭用品中毒	
7	異物	異物の定義・分類、気道・消化管・ 眼・耳・鼻・泌尿器・生殖器の異物	
8	溺水	溺水の定義・分類、病態生理、観察と処置	
9	熱中症	熱中症の定義・分類、病態生理、観察と処置	
10	偶発性低体温症	偶発性低体温症の定義・分類、 病態生理、観察と処置	
11	放射線障害	放射線障害への対応	
12	放射線障害	放射線障害の観察と処置	
13	その他の環境障害	高山病、減圧障害	
14	その他の環境障害	酸素欠乏症	
15	その他の環境障害	凍傷、紫外線による障害	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	実技	
開講学科	救急救命学科				配当時間	300	対象年次	1
科目名	シミュレーションⅠ				担当者	内山 央絵		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、 JPTECガイドブック改訂第2版、他							
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、救急隊活動の基本である一次救命処置（BLS）や外傷病院前救護ガイドラインに則った基本手技及び隊活動を習得する訓練を行う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. BLS(一次救命処置) 及びバックバルブマスクの使用方法を理解し実践できる。 2. 致死性不整脈（心室細動）の際に、除細動の有効性を理解し実践できる。 3. 外傷傷病者における状況評価/初期評価、全身観察の内容及び手法を理解し実践できる。 4. 適切な緊急度/重症度判断を行い、必要な処置を迅速かつ正確に実施できる。 5. 医療機関への適切な情報提供ができる。 							
評価方法 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期期末に実技試験（中間試験）を実施する。 2. 後期期末に実技試験（期末試験）を実施する。 3. 段階的に効果確認試験（実技）を実施する。 4. 上記1～3の試験結果を合算し、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。※評価基準については救急救命学科の規定による。 							
成績評価の フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験終了後にフィードバックを行う。 2. 各種効果確認試験において不合格であった場合は、放課後等を用いて個別練習・指導を行う。 							
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	CPA対応	胸骨圧迫 用手的気道確保	
2	CPA対応	胸骨圧迫 用手的気道確保	
3	CPA対応	胸骨圧迫 用手的気道確保	
4	CPA対応	一般市民が行う一次救命処置	
5	CPA対応	一般市民が行う一次救命処置	
6	CPA対応	一般市民が行う一次救命処置	
7	CPA対応	一般市民が行う一次救命処置	
8	CPA対応	一般市民が行う一次救命処置	
9	CPA対応	一般市民が行う一次救命処置	
10	CPA対応	BVM(バックバルブマスク) による換気	
11	CPA対応	BVM(バックバルブマスク) による換気	
12	CPA対応	BVM(バックバルブマスク) による換気	
13	CPA対応	胸骨圧迫及びBVMの効果確認	
14	CPA対応	胸骨圧迫及びBVMの効果確認	
15	CPA対応	胸骨圧迫及びBVMの効果確認	

回	単元	内容	備考
16	基本的主義	搬送器具・資器材の取り扱い方法	
17	基本的主義	搬送器具・資器材の取り扱い方法	
18	基本的主義	搬送器具・資器材の取り扱い方法	
19	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
20	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
21	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
22	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
23	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
24	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
25	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
26	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
27	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動)	
28	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
29	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
30	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	

回	単元	内容	備考
31	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
32	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
33	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
34	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
35	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
36	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (包括的電気除細動、ファーストコール)	
37	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
38	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
39	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
40	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
41	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
42	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
43	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
44	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	
45	CPA対応	救急隊員による一次救命処置 (ファーストコール、セカンドコール)	

回	単元	内容	備考
46	CPA対応	想定訓練	
47	CPA対応	想定訓練	
48	CPA対応	想定訓練	
49	CPA対応	想定訓練	
50	CPA対応	想定訓練	
51	CPA対応	想定訓練	
52	CPA対応	想定訓練	
53	CPA対応	想定訓練	
54	CPA対応	想定訓練	
55	CPA対応	想定訓練	
56	CPA対応	想定訓練	
57	期末試験	期末試験	
58	期末試験	期末試験	
59	期末試験	期末試験	
60	期末試験	期末試験	

回	単元	内容	備考
61	JPTECの活動	活動の概要/状況評価	
62	JPTECの活動	活動の概要/状況評価	
63	JPTECの活動	活動の概要/状況評価	
64	JPTECの活動	活動の概要/状況評価	
65	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
66	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
67	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
68	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
69	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
70	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
71	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
72	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
73	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
74	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	
75	JPTECの活動	初期評価 (ヘルメット離脱・気道確保)	

回	単元	内容	備考
76	JPTECの活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	
77	JPTECの活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	
78	JPTECの活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	
79	JPTECの活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	
80	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
81	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
82	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
83	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
84	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
85	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
86	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
87	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
88	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
89	JPTECの活動	全身観察 （頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	
90	JPTECの活動	全身観察（頸椎カラー装着、ログロール、SMR）	

回	単元	内容	備考
91	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
92	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
93	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
94	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
95	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
96	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
97	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
98	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
99	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
100	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
101	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
102	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
103	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
104	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
105	JPTECの活動	全身観察（各処置）	

回	単元	内容	備考
106	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
107	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
108	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
109	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
110	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
111	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
112	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
113	JPTECの活動	全身観察（各処置）	
114	JPTECの活動	効果確認試験（全身観察）	
115	JPTECの活動	効果確認試験（全身観察）	
116	JPTECの活動	効果確認試験（全身観察）	
117	JPTECの活動	効果確認試験（全身観察）	
118	JPTECの活動	車内活動/ファーストコール	
119	JPTECの活動	車内活動/ファーストコール	
120	JPTECの活動	車内活動/ファーストコール	

回	単元	内容	備考
121	JPTECの活動	車内活動/ファーストコール	
122	JPTECの活動	車内活動/ファーストコール	
123	JPTECの活動	車内活動/ファーストコール	
124	JPTECの活動	効果確認試験（ファーストコール）	
125	JPTECの活動	効果確認試験（ファーストコール）	
126	JPTECの活動	効果確認試験（ファーストコール）	
127	JPTECの活動	効果確認試験（ファーストコール）	
128	JPTECの活動	想定訓練	
129	JPTECの活動	想定訓練	
130	JPTECの活動	想定訓練	
131	JPTECの活動	想定訓練	
132	JPTECの活動	想定訓練	
133	JPTECの活動	想定訓練	
134	JPTECの活動	想定訓練	
135	JPTECの活動	想定訓練	

回	単元	内容	備考
136	JPTECの活動	想定訓練	
137	JPTECの活動	想定訓練	
138	JPTECの活動	想定訓練	
139	JPTECの活動	想定訓練	
140	JPTECの活動	想定訓練	
141	JPTECの活動	想定訓練	
142	JPTECの活動	想定訓練	
143	JPTECの活動	想定訓練	
144	JPTECの活動	想定訓練	
145	JPTECの活動	想定訓練	
146	JPTECの活動	想定訓練	
147	JPTECの活動	期末試験	
148	JPTECの活動	期末試験	
149	JPTECの活動	期末試験	
150	JPTECの活動	期末試験	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	実技	
開講学科	救急救命学科				配当時間	270	対象年次	2
科目名	シミュレーションⅡ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	若山 卓哉		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版							
科目概要	<p>救急救命士の実務経験を活かし、前期は声門上気道デバイス（ラリングアルマスク、ラリングチューブ等）・気管内チューブを用いた気道確保法の習得、静脈路確保及び各種薬剤投与方法の習得する訓練を行う。後期はPEMEC、PSLSに則った救急活動（観察/緊急度・重症度判断/処置）を習得する訓練を行う。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 声門上気道デバイスの構造・特徴及び適応を理解し、迅速かつ正確に使用できる。 2. 気管内チューブの構造・特徴及び適応を理解し、迅速かつ正確に使用できる。 3. 静脈路確保及び輸液の方法・適応を理解し、迅速かつ正確に実施できる。 4. 各種薬剤投与方法・適応を理解し、迅速かつ正確に実施できる。 5. 内因性疾患症例に対する救急隊活動が出来る。 							
評価方法 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期期末に実技試験（中間試験）を実施する。 2. 後期期末に実技試験（期末試験）を実施する。 3. 段階的に効果確認試験（実技）を実施する。 4. 上記1～3の試験結果を合算し、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。※評価基準については救急救命学科の規定による。 							
成績評価の フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験終了後にフィードバックを行う。 2. 各種効果確認試験において不合格であった場合は、放課後等を用いて個別練習・指導を行う。 							
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
2	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
3	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
4	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
5	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
6	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
7	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
8	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
9	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
10	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
11	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
12	基本手技	静脈路確保/薬剤投与	
13	基本手技	効果確認試験（静脈路確保・薬剤投与）	
14	基本手技	効果確認試験（静脈路確保・薬剤投与）	
15	基本手技	効果確認試験（静脈路確保・薬剤投与）	

回	単元	内容	備考
16	基本手技	声門上気道デバイス (LM)	
17	基本手技	声門上気道デバイス (LM)	
18	基本手技	声門上気道デバイス (LM)	
19	基本手技	声門上気道デバイス (LM)	
20	基本手技	声門上気道デバイス (LM)	
21	基本手技	声門上気道デバイス (LM)	
22	基本手技	声門上気道デバイス (LT)	
23	基本手技	声門上気道デバイス (LT)	
24	基本手技	声門上気道デバイス (LT)	
25	基本手技	声門上気道デバイス (LT)	
26	基本手技	声門上気道デバイス (LT)	
27	基本手技	声門上気道デバイス (LT)	
28	基本手技	効果確認試験 (LM/LT)	
29	基本手技	効果確認試験 (LM/LT)	
30	基本手技	効果確認試験 (LM/LT)	

回	単元	内容	備考
31	基本手技	器具を用いた異物除去法/喉頭展開	
32	基本手技	器具を用いた異物除去法/喉頭展開	
33	基本手技	器具を用いた異物除去法/喉頭展開	
34	基本手技	器具を用いた異物除去法/喉頭展開	
35	基本手技	器具を用いた異物除去法/喉頭展開	
36	基本手技	器具を用いた異物除去法/喉頭展開	
37	基本手技	気管挿管	
38	基本手技	気管挿管	
39	基本手技	気管挿管	
40	基本手技	気管挿管	
41	基本手技	気管挿管	
42	基本手技	気管挿管	
43	基本手技	気管挿管	
44	基本手技	気管挿管	
45	基本手技	気管挿管	

回	単元	内容	備考
46	基本手技	気管挿管	
47	基本手技	気管挿管	
48	基本手技	気管挿管	
49	基本手技	効果確認試験（気管挿管）	
50	基本手技	効果確認試験（気管挿管）	
51	基本手技	効果確認試験（気管挿管）	
52	基本手技	効果確認試験（気管挿管）	
53	救急活動	想定訓練	
54	救急活動	想定訓練	
55	救急活動	想定訓練	
56	救急活動	想定訓練	
57	救急活動	想定訓練	
58	救急活動	想定訓練	
59	救急活動	想定訓練	
60	救急活動	想定訓練	

回	単元	内容	備考
61	救急活動	想定訓練	
62	救急活動	想定訓練	
63	救急活動	想定訓練	
64	救急活動	想定訓練	
65	救急活動	想定訓練	
66	救急活動	想定訓練	
67	救急活動	想定訓練	
68	救急活動	想定訓練	
69	救急活動	想定訓練	
70	救急活動	想定訓練	
71	救急活動	想定訓練	
72	救急活動	想定訓練	
73	救急活動	想定訓練	
74	救急活動	想定訓練	
75	救急活動	想定訓練	

回	単元	内容	備考
76	救急活動	想定訓練	
77	救急活動	想定訓練	
78	救急活動	想定訓練	
79	救急活動	想定訓練	
80	救急活動	想定訓練	
81	救急活動	想定訓練	
82	救急活動	想定訓練	
83	救急活動	想定訓練	
84	救急活動	想定訓練	
85	救急活動	想定訓練	
86	救急活動	想定訓練	
87	期末試験	期末試験	
88	期末試験	期末試験	
89	期末試験	期末試験	
90	期末試験	期末試験	

回	単元	内容	備考
91	救急活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
92	救急活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
93	救急活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
94	救急活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
95	救急活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
96	救急活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
97	救急活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
98	救急活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
99	救急活動	想定訓練	
100	救急活動	想定訓練	
101	救急活動	想定訓練	
102	救急活動	想定訓練	
103	救急活動	想定訓練	
104	救急活動	想定訓練	
105	救急活動	想定訓練	

回	単元	内容	備考
106	救急活動	想定訓練	
107	救急活動	想定訓練	
108	救急活動	想定訓練	
109	救急活動	想定訓練	
110	救急活動	想定訓練	
111	救急活動	想定訓練	
112	救急活動	想定訓練	
113	救急活動	想定訓練	
114	救急活動	想定訓練	
115	救急活動	想定訓練	
116	救急活動	想定訓練	
117	救急活動	想定訓練	
118	救急活動	期末試験	
119	救急活動	期末試験	
120	救急活動	期末試験	

回	単元	内容	備考
121	救急活動	想定訓練	
122	救急活動	想定訓練	
123	救急活動	想定訓練	
124	救急活動	想定訓練	
125	救急活動	想定訓練	
126	救急活動	想定訓練	
127	救急活動	想定訓練	
128	救急活動	想定訓練	
129	救急活動	想定訓練	
130	救急活動	想定訓練	
131	救急活動	想定訓練	
132	救急活動	期末試験	
133	救急活動	期末試験	
134	救急活動	期末試験	
135	救急活動	期末試験	

履修区分	必修	単位数	8	開講時期	通年	形態	実技
開講学科	救急救命学科			配当時間	360	対象年次	3
科目名	シミュレーションⅢ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	齋藤 慈		
使用教材	救急救命士標準テキスト第10版、JRC蘇生ガイドライン2015・医療従事者用、JPTECガイドブック、PEMECガイドブック、PSLSガイドブック、MCLSガイドブック						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、PEMEC、PSLSに則った救急活動（観察/緊急度・重症度判断/処置）及びMCLSに則った救急活動を習得する訓練を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心肺停止症例に対する救急隊活動が出来る。 2. 外傷症例に対する救急隊活動が出来る。 3. 内因性疾患症例に対する救急隊活動が出来る。 4. 多数傷病者発生症例に対する対応が出来る。 5. 救急隊の各役割を理解し、それぞれの立場で的確に活動出来る。 6. 国家試験において出題される状況設定問題を実際の活動を通して解くことが出来る。 						
評価方法 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期期末に実技試験（中間試験）を実施する。 2. 後期期末に実技試験（期末試験）を実施する。 3. 段階的に効果確認試験（実技）を実施する。 4. 上記1～3の試験結果を合算し、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。※評価基準については救急救命学科の規定による。 						
成績評価の フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験終了後にフィードバックを行う。 2. 各種効果確認試験において不合格であった場合は、放課後等を用いて個別練習・指導を行う。 						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急救命士の活動	PEMEC、PSLSの概要/状況評価	
2	救急救命士の活動	PEMEC、PSLSの概要/状況評価	
3	救急救命士の活動	PEMEC、PSLSの概要/状況評価	
4	救急救命士の活動	PEMEC、PSLSの概要/状況評価	
5	救急救命士の活動	PEMEC、PSLSの概要/状況評価	
6	救急救命士の活動	PEMEC、PSLSの概要/状況評価	
7	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS（初期評価）	
8	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS（初期評価）	
9	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS（初期評価）	
10	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS（初期評価）	
11	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS（初期評価）	
12	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS（初期評価）	
13	救急救命士の活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	
14	救急救命士の活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	
15	救急救命士の活動	効果確認試験（状況評価/初期評価）	

回	単元	内容	備考
16	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
17	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
18	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
19	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
20	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
21	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (情報収集/バイタルサイン測定/判断)	
22	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
23	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
24	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
25	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
26	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
27	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
28	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
29	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	
30	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (全身観察/重点観察)	

回	単元	内容	備考
31	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
32	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
33	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
34	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
35	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
36	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (評価/ファーストコール/特定行為)	
37	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
38	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
39	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
40	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
41	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
42	救急救命士の活動	PEMEC、PSLS (車内活動)	
43	救急救命士の活動	効果確認試験 (評価～車内活動)	
44	救急救命士の活動	効果確認試験 (評価～車内活動)	
45	救急救命士の活動	効果確認試験 (評価～車内活動)	

回	単元	内容	備考
46	救急救命士の活動	想定訓練	
47	救急救命士の活動	想定訓練	
48	救急救命士の活動	想定訓練	
49	救急救命士の活動	想定訓練	
50	救急救命士の活動	想定訓練	
51	救急救命士の活動	想定訓練	
52	救急救命士の活動	想定訓練	
53	救急救命士の活動	想定訓練	
54	救急救命士の活動	想定訓練	
55	救急救命士の活動	想定訓練	
56	救急救命士の活動	想定訓練	
57	救急救命士の活動	想定訓練	
58	救急救命士の活動	想定訓練	
59	救急救命士の活動	想定訓練	
60	救急救命士の活動	想定訓練	

回	単元	内容	備考
61	救急救命士の活動	想定訓練	
62	救急救命士の活動	想定訓練	
63	救急救命士の活動	想定訓練	
64	救急救命士の活動	想定訓練	
65	救急救命士の活動	想定訓練	
66	救急救命士の活動	想定訓練	
67	救急救命士の活動	想定訓練	
68	救急救命士の活動	想定訓練	
69	救急救命士の活動	想定訓練	
70	救急救命士の活動	想定訓練	
71	救急救命士の活動	想定訓練	
72	救急救命士の活動	想定訓練	
73	救急救命士の活動	想定訓練	
74	救急救命士の活動	想定訓練	
75	救急救命士の活動	想定訓練	

回	単元	内容	備考
76	救急救命士の活動	MCLSの概要	
77	救急救命士の活動	MCLSの概要	
78	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（5名程度）	
79	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（5名程度）	
80	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（5名程度）	
81	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（10名程度）	
82	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（10名程度）	
83	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（10名程度）	
84	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	
85	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	
86	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	
87	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	
88	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	
89	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	
90	救急救命士の活動	多数傷病者対応想定訓練（20名程度）	

回	単元	内容	備考
91	救急救命士の活動	総合想定訓練	
92	救急救命士の活動	総合想定訓練	
93	救急救命士の活動	総合想定訓練	
94	救急救命士の活動	総合想定訓練	
95	救急救命士の活動	総合想定訓練	
96	救急救命士の活動	総合想定訓練	
97	救急救命士の活動	総合想定訓練	
98	救急救命士の活動	総合想定訓練	
99	救急救命士の活動	総合想定訓練	
100	救急救命士の活動	総合想定訓練	
101	救急救命士の活動	総合想定訓練	
102	救急救命士の活動	総合想定訓練	
103	救急救命士の活動	総合想定訓練	
104	救急救命士の活動	総合想定訓練	
105	救急救命士の活動	総合想定訓練	

回	単元	内容	備考
106	救急救命士の活動	総合想定訓練	
107	救急救命士の活動	総合想定訓練	
108	救急救命士の活動	総合想定訓練	
109	救急救命士の活動	総合想定訓練	
110	救急救命士の活動	総合想定訓練	
111	救急救命士の活動	総合想定訓練	
112	救急救命士の活動	総合想定訓練	
113	救急救命士の活動	総合想定訓練	
114	救急救命士の活動	総合想定訓練	
115	救急救命士の活動	総合想定訓練	
116	救急救命士の活動	総合想定訓練	
117	救急救命士の活動	総合想定訓練	
118	救急救命士の活動	総合想定訓練	
119	救急救命士の活動	総合想定訓練	
120	救急救命士の活動	総合想定訓練	

回	単元	内容	備考
121	救急救命士の活動	総合想定訓練	
122	救急救命士の活動	総合想定訓練	
123	救急救命士の活動	総合想定訓練	
124	救急救命士の活動	総合想定訓練	
125	救急救命士の活動	総合想定訓練	
126	救急救命士の活動	総合想定訓練	
127	救急救命士の活動	総合想定訓練	
128	救急救命士の活動	総合想定訓練	
129	救急救命士の活動	総合想定訓練	
130	救急救命士の活動	総合想定訓練	
131	救急救命士の活動	総合想定訓練	
132	救急救命士の活動	総合想定訓練	
133	救急救命士の活動	総合想定訓練	
134	救急救命士の活動	総合想定訓練	
135	救急救命士の活動	総合想定訓練	

回	単元	内容	備考
136	救急救命士の活動	総合想定訓練	
137	救急救命士の活動	総合想定訓練	
138	救急救命士の活動	総合想定訓練	
139	救急救命士の活動	総合想定訓練	
140	救急救命士の活動	総合想定訓練	
141	救急救命士の活動	総合想定訓練	
142	救急救命士の活動	総合想定訓練	
143	救急救命士の活動	総合想定訓練	
144	救急救命士の活動	総合想定訓練	
145	救急救命士の活動	総合想定訓練	
146	救急救命士の活動	総合想定訓練	
147	救急救命士の活動	総合想定訓練	
148	救急救命士の活動	総合想定訓練	
149	救急救命士の活動	総合想定訓練	
150	救急救命士の活動	総合想定訓練	

回	単元	内容	備考
151	救急救命士の活動	総合想定訓練	
152	救急救命士の活動	総合想定訓練	
153	救急救命士の活動	総合想定訓練	
154	救急救命士の活動	総合想定訓練	
155	救急救命士の活動	総合想定訓練	
156	救急救命士の活動	総合想定訓練	
157	救急救命士の活動	総合想定訓練	
158	救急救命士の活動	総合想定訓練	
159	救急救命士の活動	総合想定訓練	
160	救急救命士の活動	総合想定訓練	
161	救急救命士の活動	総合想定訓練	
162	救急救命士の活動	総合想定訓練	
163	救急救命士の活動	総合想定訓練	
164	救急救命士の活動	総合想定訓練	
165	救急救命士の活動	総合想定訓練	

回	単元	内容	備考
166	救急救命士の活動	総合想定訓練	
167	救急救命士の活動	総合想定訓練	
168	救急救命士の活動	総合想定訓練	
169	救急救命士の活動	総合想定訓練	
170	救急救命士の活動	総合想定訓練	
171	救急救命士の活動	総合想定訓練	
172	救急救命士の活動	総合想定訓練	
173	救急救命士の活動	総合想定訓練	
174	救急救命士の活動	総合想定訓練	
175	救急救命士の活動	総合想定訓練	
176	救急救命士の活動	総合想定訓練	
177	期末試験	期末試験	
178	期末試験	期末試験	
179	期末試験	期末試験	
180	期末試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	実習
開講学科	救急救命学科			配当時間	90	対象年次	2
科目名	救急用自動車同乗実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	鈴木 俊彦		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、JPTECガイドブック、PEMEC、PCEC、各地域MC協議会のプロトコール						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて消防業務の実際や資質を確認することを支援し、救急救命士としての知識・技術・態度を高める指導を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消防業務、救急業務を理解する。 2. 救急救命士の使命を理解する。 3. 救急車内の資器材の取り扱い、操作ができる。 4. 規律訓練が実施し、指示通りに動ける。 5. 救急隊の責任者及び隊員の指示により、救急現場で活動が出来る。 						
評価方法 基準	<p>消防本部・局の指導的立場の救急救命士が、「優、良、可、不可」の4段階で評価する。</p> <p>※「優、良、可」を合格とする。</p>						
成績評価の フィードバック	救急出動に関しては、帰署途上及び帰署後に指導的立場の救急救命士がそれぞれの救急事案に対してのフィードバックを行う。また消防署内で行う様々な訓練は当直責任者がフィードバックを行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>事前に消防組織・業務について調べておくことが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	救急用自動車同乗実習	救急用自動車同乗実習に伴う 様々な活動を90時間経験する。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	実習
開講学科	救急救命学科			配当時間	180	対象年次	2
科目名	病院内実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	齋藤 慈		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、JPTECガイドブック、PEMEC、PCEC、各地域MC協議会のプロトコール						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて医療従事者としての資質を養うとともに救急救命士に必要な基本的医学の知識・技術・態度を高める指導を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者の指導・観察下に実施が許容されるものを経験する。 2. 指導者が介助する場合に実施が許容されるものを経験する。 3. 医療行為を行うものを介助する様々な処置を経験する。 4. 医療機関で医療従事者として患者様への接遇が出来る。 5. 救急搬送されてきた傷病者の対応ができる。 						
評価方法 基準	<p>医療機関での指導的立場の医師、看護師、救急救命士から、「優、良、可、不可」の4段階で評価する。</p> <p>※「優、良、可」を合格とする。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>毎日の診察の中で指導的立場の医療従事者からフィードバックをしていただきます。更に2週間に1回程度病院内でのカンファレンスを行い様々な症例に対してフィードバックを実施する。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>医療機関（病院）へかかった際に医師、看護師の動きを見てみると良い。その際に仕事内容を理解することが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	病院内実習	医療機関内で様々な症例を180時間経験する。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
開講学科	救急救命学科			配当時間	15	対象年次	2
科目名	特別演習Ⅰ			担当者	若山 卓哉		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、他						
科目概要	救急救命士の実務経験を活かし、国家試験の対策として状況設定問題を作成し、解説することにより知識の統合を図る。また、病院内実習に向け、実習先医療機関の概要や必要な医療知識（検査値、各疾患の病態など）を解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院臨床実習の目的を理解する 2. 実習先医療機関の概要を理解する 3. 各種検査の種類や検査データの正常値・異常値について理解する 4. 実習計画書及び日報、報告書等の正しい記入方法を理解する 5. 各疾患毎の病態生理に基づいた状況設定問題を作成できる 						
評価方法 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先医療機関の概要、各種疾患、各種検査及び検査データの正常値や異常値、実習目標設定シート等をまとめた事前学習レポートの提出を求める。 2. 指定された疾患をベースとした症例想定を作成し提出させる。 <p>上記内容に応じて点数化し、合計点が60点以上の者に単位を認定する。 ※評価基準については救急救命学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題作成の作業を数段階に分け、その都度教員による指導を行う。 2. 提出された課題毎に教員による校閲を実施し、フィードバックを行う。 3. 内容不十分である場合は課題の再提出を求め、フィードバックを行う。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>専門性の高い内容であるため準備学習は困難であると思われるが、医療機関内の診療科目や勤務する医療職者の種類などについて、更にはドクターヘリ/ドクターカーの業務、D-MATの業務や役割などについて知見を深めていることが望ましい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	グループワーク	症例想定作成①	
2	グループワーク	症例想定作成②	
3	グループワーク	症例想定作成③	
4	グループワーク	症例想定作成④	
5	講義/グループワーク	病院臨床実習の目的	
6	講義/グループワーク	実習先医療機関の概要	
7	講義/グループワーク	各種検査/正常値・異常値	
8	講義/グループワーク	実習目標/日報・報告書	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	救急救命学科				配当時間	180	対象年次 3
科目名	特別演習Ⅱ				担当者	戸谷幸永ほか 非常勤講師	
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	各教員により指定する						
科目概要	<p>公務員試験一次試験の合格に向け、以下の科目について演習を行う。</p> <p>化学・物理（戸谷） 生物（根岸） 判断推理（大熊） 人文科学・日本史・世界史（荒井）</p> <p>これらの科目を得点源とするために、基本的事項の確認と過去問等の問題演習の形態をとるが、テーマにより講義を含める場合もある。</p>						
到達目標	各科目において、基本的事項の理解のため継続的な学習を重ね、本試験レベルの問題を解けるようになる。						
評価方法	原則として、学科の規定により評価をするが、科目により授業計画に記載する方法によって評価を行う場合もある。						
課題に対するフィードバック	科目により異なるので、次ページ以降の授業内容にて確認すること。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>学習範囲が多岐に渡るが、各科目においてこれまで学習をした基本的なことを確認しておくこと。</p>						

授業計画 物理（180時間中30時間） 担当：戸谷幸永

回	単元	内容	備考
1	問題演習	力の釣り合い	
2	問題演習	摩擦力・弾性力	
3	問題演習	等加速度直線運動	
4	問題演習	落下運動（自由落下、水平投射等）	
5	問題演習	力と加速度	
6	問題演習	運動量・運動量保存の法則	
7	問題演習	位置エネルギー・運動エネルギー	
8	問題演習	力学分野の総合問題	
9	問題演習	波の種類・特徴	
10	問題演習	ドップラー効果	
11	問題演習	波動分野の総合問題	
12	問題演習	オームの法則・合成抵抗	
13	問題演習	回路を流れる電流と電圧	
14	問題演習	電磁気分野の総合演習	
15	問題演習	全分野の総合演習	
科目別到達目標		等加速度直線運動（落下運動も含む）、運動の3法則、波動、オームの法則・電気回路に関連する公務員試験に出題された問題を解くことができる。	
科目別評価方法		試験を実施する。評価基準は学科の規定による。	
フィードバック		単元ごとに問題演習を行い、理解の程度を確認する。必要に応じてし解説を行う。	
履修要件		1年次の物理の授業内容を復習しておくこと。	

授業計画 化学・生物（180時間中30時間） 担当：戸谷幸永（化学）・非常勤講師（生物）

回	単元	内容	備考
16	化学問題演習	物質の構造	戸谷
17	化学問題演習	三態変化 ボイルシャルルの法則	戸谷
18	化学問題演習	溶液の濃度・溶解度・再結晶	戸谷
19	化学問題演習	酸・塩基・中和	戸谷
20	化学問題演習	酸化還元	戸谷
21	化学問題演習	有機化学	戸谷
22	化学問題演習	総合問題	戸谷
23	生物問題演習	細胞	根岸
24	生物問題演習	植物の調整作用	根岸
25	生物問題演習	同化と異化	根岸
26	生物問題演習	動物の恒常性と調整	根岸
27	生物問題演習	神経系の発達	根岸
28	生物問題演習	遺伝・生殖と発生	根岸
29	生物問題演習	進化・生態系と環境問題	根岸
30	試験	化学・生物に関する試験を行う	戸谷・根岸
科目別到達目標		(化学) 物質の構造・三態変化、溶液・コロイド、酸・塩基、酸化還元、有機化学に関連する公務員試験に出題された問題を解くことができる。 (生物) 公務員試験の頻出項目について、問題を解くことができる。	
科目別評価方法		試験を実施する。評価基準は学科の規定による。	
フィードバック		単元ごとに問題演習を行い、理解の程度を確認する。必要に応じてし解説を行う。	
履修要件		1年次の授業内容を復習しておくこと。また、公務員試験に合格するという強い意志を示してほしい。	

回	単元	内容	備考
31	第1章 命題 論理	命題とは何か、暗号の考え方	
32	第2章 暗号	暗号の考え方	
33	第3章 対応関係 (1)	勝敗	
34	第4章 対応関係 (2)	対応	
35	第5章 対応関係 (3)	類推	
36	第6章 対応関係 (4)	嘘つき問題	
37	第7章 順位順序 (1)	序列・大小	
38	第8章 順位順序 (2)	数値	
39	第9章 順位順序 (3)	追い越し・親族	
40	第10章 位置	位置の関係	
41	第11章 方位	東西南北 関係	
42	第12章 集合	包含 関係	
43	第13章 魔法陣	最短距離・最小回数 問題	
44	第14章 道順	最短距離 問題	
45	中間試験		
科目別到達目標			
科目別評価方法			
フィードバック			
履修要件			

回	単元	内容	備考
46	第15章 手順	最小回数 問題	
47	第16章 曜日	曜日の成り立ち関係	
48	第17章 その他の問題		
49	第18章 平面図形 (1)	平面の構成	
50	第19章 平面図形 (2)	平面の軌跡	
51	第20章 立体図形 (1)	正多面体	
52	第21章 立体図形 (2)	立体の構造	
53	各章演習		
54	各章演習		
55	各章演習		
56	各章演習		
57	各章演習		
58	各章演習		
59	各章演習		
60	期末試験		
科目別到達目標	各分野、基本的なことができるようになること		
科目別評価方法	前期の定期試験に加え、期途中の15回目辺りに中間試験を実施して、2回の試験、演習中の出来を勘案し評価する		
フィードバック	中間試験問題は次の時間に解説し、出来なかった者には再度やらせる		
履修要件	範囲が多岐に渡っているのでこれと云うのは難しい、全教科的なことを確認しておく必要があると思う		

回	単元	内容	備考
61	統一国家の成立	小国分立・邪馬台国・大和王権	
62	律令体制の確立	憲法第十七条・近江令・飛鳥浄御原令 大宝律令	
63	奈良時代の政治と社会	貴族政治の展開と墾田地系荘園	
64	律令体制の再建と失敗	藤原摂関政治と寄進地系荘園	
65	地方の混乱と武士の勃興	地方の混乱と武士の勃興	
66	院生と平氏政権	院生と平氏政権	
67	鎌倉幕府	鎌倉幕府と執権政治の展開 元寇と鎌倉幕府の滅亡	
68	南北朝時代	建武の新政と南北朝の動乱	
69	室町幕府	荘園制の崩壊と惣村制	
70	応仁の乱	応仁の乱と守護大名の没落	
71	ヨーロッパ人の来航と キリスト教の伝来	ヨーロッパ人の来航とキリスト教の伝来	
72	江戸幕府1	江戸幕府の幕閣体制と鎖国	
73	三大革命	享保の改革・寛政の改革・店舗の改革	
74	江戸幕府2	鎖国体制の動揺と江戸幕府の崩壊	
75		期末試験	
科目別到達目標	消防職・救命職公務員合格のため、高等学校卒業程度プラスアルファの範囲を到達目標にする。		
科目別評価方法	学期途中及び期末に筆記試験を実施し、授業への出席率・授業態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。		
フィードバック	一斉授業を基本とし、こまめに問題演習を行い知識の定着を図る。		
履修要件	暗記することはもちろん、科目の性格上、事柄の流れをしっかりと理解することが必要である。個人でも関心を持ち、不明な点は積極的に質問などを行い解決してほしい。		

回	単元	内容	備考
76	西洋史近代1	帝国主義	
77	西洋史近代2	第一次世界大戦・1920年代～30年代の状況	
78	西洋史近代3	第二次世界大戦・冷戦とその終結	
79	中国史	明・清	
80	西洋史近世1	絶対王政・市民革命	
81	西洋史近世2	市民革命・ウィーン体制	
82	西洋史近世3・中国史	産業革命・その他	
83	近世1	江戸幕府のしくみと統制・初期の外交	
84	近世2	江戸期の政治展開	
85	近世3	江戸期の政治展開・後期の外交	
86	近世4	幕末期の政治・討幕の流れ	
87	近代1	明治期	
88	近代2	明治期・大正期	
89	近代3・現代	昭和期・現代	
90		期末試験	
科目別到達目標		消防職・救命職公務員合格のため、高等学校卒業程度プラスアルファの範囲を到達目標にする。	
科目別評価方法		学期途中及び期末に筆記試験を実施し、授業への出席率・授業態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。	
フィードバック		一斉授業を基本とし、こまめに問題演習を行い知識の定着を図る。	
履修要件		暗記することはもちろん、科目の性格上、事柄の流れをしっかりと理解することが必要である。個人でも関心を持ち、不明な点は積極的に質問などを行い解決してほしい。	

履修区分	必修	単位数	12	開講時期	後期	形態	講義・演習
開講学科	救急救命学科			配当時間	360	対象年次	3
科目名	特別演習Ⅲ			担当者	鈴木 俊彦 斎藤 美都江 斎藤 慈		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、救急救命士国家試験問題集、業者模擬試験、オリジナル国家試験想定問題プリント等						
科目概要	救急救命士・看護師の実務経験を活かし、国家試験の出題項目や頻出事項について基本的知識を習得し、さらに練習問題や過去問題の演習及び解説により知識の統合を図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急救命士国家試験により高い点数で合格できる学力に到達する。 2. 様々な問題形式に慣れる。 3. 弱点科目（分野）の学力が向上する。 4. 多くの問題を解くことで、国家試験受験に向けて自信がつく。 						
評価方法 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストおよび業者模擬試験を実施する。 2. 救急救命士教育施設協議会模擬試験を実施する。 3. 救急救命士国家試験（過去問題）を実施する。 上記内容に応じて点数化し、合計点が60点以上の者に単位を認定する。 ※評価基準については救急救命学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬試験の結果はすべて公表する。 2. 問題や正答は公表し、事後学習を実施させる。 3. 必要に応じ解説及び補講を実施する。 						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 国家試験受験の意思があり、合格を目指していること。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	模擬試験	国家試験模擬試験①（午前問題）	
2	模擬試験	国家試験模擬試験①（午前問題）	
3	模擬試験	国家試験模擬試験①（午後問題）	
4	模擬試験	国家試験模擬試験①（午後問題）・自己採点	
5	模擬試験	国家試験模擬試験①見直し・解説	
6	講義	人体の構造と機能・確認テスト	
7	講義	人体の構造と機能・確認テスト	
8	講義	人体の構造と機能・確認テスト	
9	講義	人体の構造と機能・確認テスト	
10	講義	人体の構造と機能・確認テスト	
11	講義	疾患の成り立ちと回復の過程・確認テスト	
12	講義	疾患の成り立ちと回復の過程・確認テスト	
13	講義	疾患の成り立ちと回復の過程・確認テスト	
14	講義	疾患の成り立ちと回復の過程・確認テスト	
15	模擬試験	国家試験模擬試験②（午前問題）	

回	単元	内容	備考
16	模擬試験	国家試験模擬試験②（午前問題）	
17	模擬試験	国家試験模擬試験②（午後問題）	
18	模擬試験	国家試験模擬試験②（午後問題）・自己採点	
19	模擬試験	国家試験模擬試験②見直し・解説	
20	講義	薬物と検査の基礎知識・確認テスト	
21	講義	救急医学概論・確認テスト	
22	講義	救急医学概論、病院前医療概論・確認テスト	
23	講義	救急医学概論、病院前医療概論・確認テスト	
24	講義	救急医学概論、病院前医療概論・確認テスト	
25	講義	救急医学概論、病院前医療概論・確認テスト	
26	模擬試験	国家試験模擬試験③（午前問題）	
27	模擬試験	国家試験模擬試験③（午前問題）	
28	模擬試験	国家試験模擬試験③（午後問題）	
29	模擬試験	国家試験模擬試験③（午後問題）・自己採点	
30	模擬試験	国家試験模擬試験③見直し・解説	

回	単元	内容	備考
31	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
32	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
33	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
34	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
35	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
36	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
37	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
38	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
39	講義	救急救命処置概論・確認テスト	
40	模擬試験	国家試験模擬試験④（午前問題）	
41	模擬試験	国家試験模擬試験④（午前問題）	
42	模擬試験	国家試験模擬試験④（午後問題）	
43	模擬試験	国家試験模擬試験④（午後問題）・自己採点	
44	模擬試験	国家試験模擬試験④見直し・解説	
45	講義	救急病態生理学・確認テスト	

回	単元	内容	備考
46	講義	救急病態生理学・確認テスト	
47	講義	救急病態生理学・確認テスト	
48	講義	救急症候学・確認テスト	
49	講義	疾病救急医学・確認テスト	
50	講義	疾病救急医学・確認テスト	
51	講義	疾病救急医学・確認テスト	
52	講義	疾病救急医学・確認テスト	
53	講義	疾病救急医学・確認テスト	
54	講義	疾病救急医学・確認テスト	
55	模擬試験	国家試験模擬試験⑤（午前問題）	
56	模擬試験	国家試験模擬試験⑤（午前問題）	
57	模擬試験	国家試験模擬試験⑤（午後問題）	
58	模擬試験	国家試験模擬試験⑤（午後問題）・自己採点	
59	模擬試験	国家試験模擬試験⑤見直し・解説	
60	講義	外傷救急医学・確認テスト	

回	単元	内容	備考
61	講義	外傷救急医学・確認テスト	
62	講義	外傷救急医学・確認テスト	
63	講義	外傷救急医学・確認テスト	
64	講義	外傷救急医学・確認テスト	
65	講義	外傷救急医学・確認テスト	
66	講義	外傷救急医学・確認テスト	
67	講義	外傷救急医学・確認テスト	
68	模擬試験	国家試験模擬試験⑥（午前問題）	
69	模擬試験	国家試験模擬試験⑥（午前問題）	
70	模擬試験	国家試験模擬試験⑥（午後問題）	
71	模擬試験	国家試験模擬試験⑥（午後問題）・自己採点	
72	模擬試験	国家試験模擬試験⑥見直し・解説	
73	講義	弱点分野・科目（学生希望科目）	
74	講義	弱点分野・科目（学生希望科目）	
75	講義	弱点分野・科目（学生希望科目）	

回	単元	内容	備考
76	講義	弱点科目（学生希望科目）	
77	講義	弱点科目（学生希望科目）	
78	講義	弱点科目（学生希望科目）	
79	講義	弱点科目（学生希望科目）	
80	講義	弱点科目（学生希望科目）	
81	講義	弱点科目（学生希望科目）	
82	講義	弱点科目（学生希望科目）	
83	講義	弱点科目（学生希望科目）	
84	講義	弱点科目（学生希望科目）	
85	講義	弱点科目（学生希望科目）	
86	模擬試験	国家試験模擬試験⑦（午前問題）	
87	模擬試験	国家試験模擬試験⑦（午前問題）	
88	模擬試験	国家試験模擬試験⑦（午後問題）	
89	模擬試験	国家試験模擬試験⑦（午後問題）・自己採点	
90	模擬試験	国家試験模擬試験⑦見直し・解説	

回	単元	内容	備考
91	講義	健康と社会保障・確認テスト	
92	講義	健康と社会保障・確認テスト	
93	講義	健康と社会保障・確認テスト	
94	講義	健康と社会保障・確認テスト	
95	講義	健康と社会保障・確認テスト	
96	講義	健康と社会保障・確認テスト	
97	講義	健康と社会保障・確認テスト	
98	講義	健康と社会保障・確認テスト	
99	グループワーク	自習・グループ学習	
100	グループワーク	自習・グループ学習	
101	模擬試験	国家試験模擬試験⑧（午前問題）	
102	模擬試験	国家試験模擬試験⑧（午前問題）	
103	模擬試験	国家試験模擬試験⑧（午後問題）	
104	模擬試験	国家試験模擬試験⑧（午後問題）・自己採点	
105	模擬試験	国家試験模擬試験⑧見直し・解説	

回	単元	内容	備考
106	講義	社会と医療・確認テスト	
107	講義	社会と医療・確認テスト	
108	講義	社会と医療・確認テスト	
109	講義	社会と医療・確認テスト	
110	講義	社会と医療・確認テスト	
111	講義	社会と医療・確認テスト	
112	講義	社会と医療・確認テスト	
113	講義	社会と医療・確認テスト	
114	グループワーク	自習・グループ学習	
115	グループワーク	自習・グループ学習	
116	模擬試験	国家試験模擬試験⑨（午前問題）	
117	模擬試験	国家試験模擬試験⑨（午前問題）	
118	模擬試験	国家試験模擬試験⑨（午後問題）	
119	模擬試験	国家試験模擬試験⑨（午後問題）・自己採点	
120	模擬試験	国家試験模擬試験⑨見直し・解説	

回	単元	内容	備考
121	講義	弱点科目（学生希望科目）	
122	講義	弱点科目（学生希望科目）	
123	講義	弱点科目（学生希望科目）	
124	講義	弱点科目（学生希望科目）	
125	講義	弱点科目（学生希望科目）	
126	模擬試験	国家試験模擬試験⑩（午前問題）	
127	模擬試験	国家試験模擬試験⑩（午前問題）	
128	模擬試験	国家試験模擬試験⑩（午後問題）	
129	模擬試験	国家試験模擬試験⑩（午後問題）・自己採点	
130	模擬試験	国家試験模擬試験⑩見直し・解説	
131	講義	弱点科目（学生希望科目）	
132	講義	弱点科目（学生希望科目）	
133	講義	弱点科目（学生希望科目）	
134	講義	弱点科目（学生希望科目）	
135	講義	弱点科目（学生希望科目）	

回	単元	内容	備考
136	模擬試験	国家試験模擬試験⑪（午前問題）	
137	模擬試験	国家試験模擬試験⑪（午前問題）	
138	模擬試験	国家試験模擬試験⑪（午後問題）	
139	模擬試験	国家試験模擬試験⑪（午後問題）・自己採点	
140	模擬試験	国家試験模擬試験⑪見直し・解説	
141	講義	弱点科目（学生希望科目）	
142	講義	弱点科目（学生希望科目）	
143	講義	弱点科目（学生希望科目）	
144	講義	弱点科目（学生希望科目）	
145	講義	弱点科目（学生希望科目）	
146	模擬試験	国家試験模擬試験⑫（午前問題）	
147	模擬試験	国家試験模擬試験⑫（午前問題）	
148	模擬試験	国家試験模擬試験⑫（午後問題）	
149	模擬試験	国家試験模擬試験⑫（午後問題）・自己採点	
150	模擬試験	国家試験模擬試験⑫見直し・解説	

回	単元	内容	備考
151	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
152	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
153	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
154	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
155	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
156	模擬試験	国家試験模擬試験⑬（午前問題）	
157	模擬試験	国家試験模擬試験⑬（午前問題）	
158	模擬試験	国家試験模擬試験⑬（午後問題）	
159	模擬試験	国家試験模擬試験⑬（午後問題）・自己採点	
160	模擬試験	国家試験模擬試験⑬見直し・解説	
161	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
162	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
163	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
164	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
165	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	

回	単元	内容	備考
166	模擬試験	国家試験模擬試験⑭（午前問題）	
167	模擬試験	国家試験模擬試験⑭（午前問題）	
168	模擬試験	国家試験模擬試験⑭（午後問題）	
169	模擬試験	国家試験模擬試験⑭（午後問題）・自己採点	
170	模擬試験	国家試験模擬試験⑭見直し・解説	
171	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
172	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
173	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
174	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
175	講義/グループワーク	弱点科目（学生希望科目）	
176	模擬試験	国家試験模擬試験⑮（午前問題）	
177	模擬試験	国家試験模擬試験⑮（午前問題）	
178	模擬試験	国家試験模擬試験⑮（午後問題）	
179	模擬試験	国家試験模擬試験⑮（午後問題）・自己採点	
180	模擬試験	国家試験模擬試験⑮見直し・解説	